

Volume Migration

ユーザガイド

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 85

4051-1J-U18-00

ストレージシステムを操作する場合は、必ずこのマニュアルを読み、操作手順、および指示事項をよく理解してから操作してください。

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2026, Hitachi Vantara, Ltd.

免責事項

このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製することはできません。

このマニュアルの内容については、将来予告なしに変更することがあります。

このマニュアルに基づいてソフトウェアを操作した結果、たとえ当該ソフトウェアがインストールされているお客様所有のコンピュータに何らかの障害が発生しても、当社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。このマニュアルの当該ソフトウェアご購入後のサポートサービスに関する詳細は、弊社営業担当にお問い合わせください。

商標類

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標または登録商標です。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

発行

2026年1月 (4051-1J-U18-00)

目次

はじめに.....	7
対象ストレージシステム.....	8
マニュアルの参照と適合プログラムバージョン.....	8
対象読者.....	8
このマニュアルの位置付け.....	8
マニュアルで使用する記号について.....	8
ユーザの操作権限（ロール）について.....	9
RAID Manager コマンドについて.....	9
REST API の管理ツールについて.....	9
プログラムプロダクト TrueCopy について.....	9
発行履歴.....	9
1. Volume Migration の概要と動作.....	11
1.1 Volume Migration の概要.....	12
1.2 ボリューム移動とは.....	12
2. Volume Migration の要件.....	15
2.1 RAID Manager から Volume Migration を操作する場合のシステム要件.....	16
2.2 ボリュームの組み合わせの要件.....	16
2.3 Volume Migration のソースボリュームとして指定できる Thin Image Advanced の構成.....	16
2.4 Volume Migration のソースボリュームの注意事項.....	17
2.4.1 Volume Migration のソースボリュームにできる TrueCopy for Mainframe ペアの状態.....	18
2.4.2 Volume Migration のソースボリュームにできる TrueCopy ペアの状態.....	19
2.4.3 Volume Migration のソースボリュームにできる Universal Replicator for Mainframe ペアの状態.....	19
2.4.4 Volume Migration のソースボリュームにできる Universal Replicator for Mainframe と TrueCopy for Mainframe とを併用する 3DC マルチターゲット構成とペアの状態.....	20
2.4.5 Volume Migration のソースボリュームにできる Universal Replicator ペアの状態.....	22
2.4.6 Volume Migration のソースボリュームにできる Universal Replicator と TrueCopy とを併用する 3DC マルチターゲット構成とペアの状態.....	22
2.4.7 Volume Migration のソースボリュームにできる global-active device ペアの状態.....	24
2.4.8 Volume Migration のソースボリュームにできる Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe で使用している仮想ボリューム.....	24
2.4.9 Volume Migration のソースボリュームにできる ShadowImage ペアまたは ShadowImage for Mainframe ペアの状態と構成.....	25

2.4.10 Volume Migration のソースボリュームにできる Resource Partition Manager でリソースグループに割り当てられているボリューム.....	25
2.4.11 Volume Migration のソースボリュームにできる Data Retention Utility でアクセス属性が設定されているボリューム.....	26
(1) Volume Migration の状態と Data Retention Utility で設定できるアクセス属性.....	27
2.4.12 Volume Migration のソースボリュームにできる Volume Retention Manager でアクセス属性が設定されているボリューム.....	27
2.5 Volume Migration のターゲットボリュームの注意事項.....	28
2.6 コンカレントコピー (CC) ペアのボリューム.....	29
2.7 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームをソースボリュームやターゲットボリュームにする場合の注意事項.....	29
2.8 ボリューム移動に関する注意事項.....	31
2.9 同時に実行できるペア数.....	33
2.9.1 同時に実行できるペア数の計算方法.....	33
2.9.2 メインフレームシステムのボリューム移動時に使用する差分テーブル枚数およびペアテーブル枚数.....	34
2.9.3 オープンシステムのボリューム移動時に使用する差分テーブル枚数およびペアテーブル枚数.....	36
3.ボリュームの移動.....	39
3.1 ボリュームの移動手順.....	40
4.保守.....	43
4.1 ストレージシステム保守作業中の注意事項.....	44
4.2 ストレージシステムの電源を切るときの注意事項.....	44
5.Volume Migration のトラブルシューティング.....	45
5.1 ボリュームの移動が完了するまでに時間がかかる場合の対処.....	46
5.2 ストレージシステムの負荷が高い状態でのボリューム移動に関するトラブルへの対処と他のプログラムプロダクトへの影響.....	47
5.2.1 コピーしきい値オプション (システムオプションモード 467) を使ったストレージシステムへの負荷を軽減する方法.....	47
5.2.2 容量削減機能用のコピーしきい値オプションを使ったストレージシステムへの負荷を軽減する方法.....	48
(1) 容量削減機能用のコピーしきい値オプション (ストレージシステム単位)	48
(2) 容量削減機能用のコピーしきい値オプション (CLPR 単位)	48
5.2.3 進捗率 100%になってもボリューム移動が完了しない場合の対処.....	49
5.2.4 併用する他のプログラムプロダクトのコピー時間に与える影響と目安時間.....	49
5.2.5 多重度互換モードオプションを使ったストレージシステムへの負荷を軽減する方法.....	50
5.3 ボリュームの移動で障害が発生した場合の対処.....	50
5.4 RAID Manager 使用時のトラブルシューティング.....	51
5.5 お問い合わせ先.....	61
付録 A このマニュアルの参考情報.....	63
A.1 操作対象リソースについて.....	64
A.2 このマニュアルでの表記.....	64
A.3 このマニュアルで使用している略語.....	64
A.4 KB (キロバイト) などの単位表記について.....	64

用語解説.....	67
索引.....	89



はじめに

このマニュアルでは、Volume Migration の概要と使用方法について説明しています。

- 対象ストレージシステム
- マニュアルの参照と適合プログラムバージョン
- 対象読者
- このマニュアルの位置付け
- マニュアルで使用する記号について
- ユーザの操作権限（ロール）について
- RAID Manager コマンドについて
- REST API の管理ツールについて
- プログラムプロダクト TrueCopy について
- 発行履歴

対象ストレージシステム

このマニュアルでは、次に示す Hitachi Virtual Storage Platform One Block 80 のストレージシステムに対応する製品（プログラムプロダクト）を対象として記述しています。

- Hitachi Virtual Storage Platform One Block 85

このマニュアルでは特に断りのない限り、上記モデルのストレージシステムを単に「ストレージシステム」または「本ストレージシステム」と称することがあります。

マニュアルの参照と適合プログラムバージョン

このマニュアルは、次の DKCMAIN プログラムバージョンに適合しています。

A0-05-21-XX

対象読者

このマニュアルは、次の方を対象読者として記述しています。

- ストレージシステムを運用管理する方
- UNIX[®]コンピュータまたは Windows[®]コンピュータを使い慣れている方
- Web ブラウザを使い慣れている方

このマニュアルの位置付け

このマニュアルでは、主に Volume Migration の機能、要件、注意事項およびトラブルシューティングについて説明します。

詳細な操作方法については、次の各管理ツールのマニュアルを参照してください。

管理ツール	参照マニュアル
RAID Manager	『RAID Manager ユーザガイド』 『RAID Manager コマンドリファレンス』
詳細 API	『VSP Block Storage REST API リファレンスガイド』

マニュアルで使用する記号について

このマニュアルでは、注意書きや補足情報を、次のとおり記載しています。



注意

データの消失・破壊のおそれや、データの整合性がなくなるおそれがある場合などの注意を示します。



メモ

解説、補足説明、付加情報などを示します。



ヒント

より効率的にストレージシステムを利用するのに役立つ情報を示します。

ユーザの操作権限（ロール）について

このマニュアルに記載されている、RAID Manager および内蔵 CLI を操作する際に、前提条件として必要となるロールの詳細は、『RAID Manager ユーザガイド』※を参照してください。

注※

詳細は、「ユーザ認証機能」の Storage Navigator または maintenance utility で設定したユーザの操作権限に従って実行されるコマンドに関する記載を参照してください。

RAID Manager コマンドについて

本マニュアルに記載されている pair で始まるコマンド（paircreate コマンドなど）は、raidcom で始まるコマンドでも操作可能です。詳細は、『RAID Manager ユーザガイド』を参照してください。

REST API の管理ツールについて

Virtual Storage Platform One Block 80 が提供する REST API の管理ツールには、次の 2 種類があります。それぞれの特徴や使い分けなどの詳細は『VSP Block Storage REST API リファレンスガイド』を参照してください。

「REST API」と記載している箇所は、次の両方の REST API を示します。

REST API 管理ツール	説明
シンプル API	リクエストラインに simple を含む REST API です。 基本的なプロビジョニングのために設計されており、高速な実行を確保するためのアーキテクチャーを取り入れています。設定項目は最小限に抑えられ、複雑さを軽減し、効率的な手順で迅速にシステムのプロビジョニングができます。
詳細 API	リクエストラインに simple を含まない REST API です。 プロビジョニングのための詳細な設定項目を提供しており、ストレージシステムが混在した環境での高度な設定に対応した、幅広い選択肢が用意されています。設定にはシンプル API よりも多くの手順を伴いますが、より柔軟な制御を実現できます。

プログラムプロダクト TrueCopy について

DKCMAIN プログラムバージョン A0-05-21-XX/XX 以前では、TrueCopy は未サポートです。

発行履歴

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
4051-1J-U18-00	2026 年 1 月	新規

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
		適合 DKCMAIN プログラムバージョン : A0-05-21-XX

Volume Migration の概要と動作

Volume Migration は、あるボリュームを別のパリティグループに移動させることで、ボリュームへのアクセス性能を最適化するためのソフトウェアです。

- 1.1 Volume Migration の概要
- 1.2 ボリューム移動とは

1.1 Volume Migration の概要

Volume Migration は、ホストからドライブ（以降、SSD を指します）へのアクセス性能をチューニングして最適化したり、ボリュームを移動したりするソフトウェアです。Volume Migration を利用すると、特定のドライブに集中しているアクセス負荷を他のドライブへと分散できるので、システムのボトルネックを解消できます。

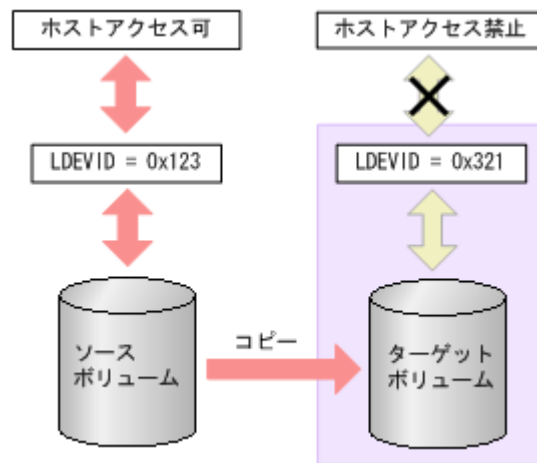
ホストからのアクセスが特定のドライブや特定のデータに集中すると、ドライブへの入出力待ち時間が増えるため、システムの処理速度が低下するおそれがあります。Volume Migration を利用すると、システム管理者はドライブの中から利用率の高いボリュームを選んで、利用率の低いドライブへ移動したり、高速なドライブへ移動したりできます。このようにボリュームを移動することで、システム管理者はホストからのアクセス負荷を複数のドライブに分散し、システムのボトルネックを解消できます。ボリュームの移動操作は完全に非破壊的なので、ホストは移動中のボリュームに対してもオンラインでデータの読み込み（Read）および書き込み（Write）ができます。

オープンシステム用のホストから RAID Manager のコマンドを使用すると、オープンシステム用とメインフレームシステム用の両方のボリュームを移動できます。

1.2 ボリューム移動とは

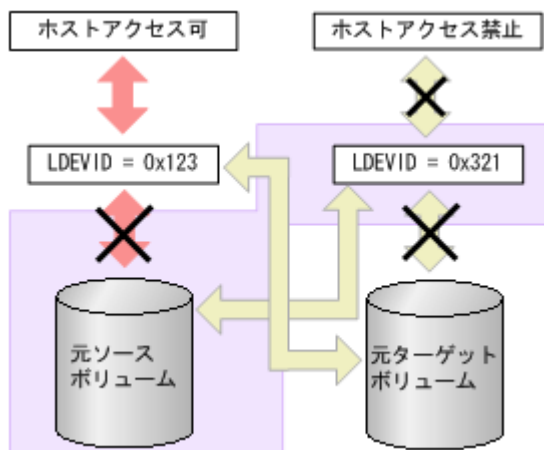
Volume Migration を利用すると、ホストは移動中のボリュームに対して、オンラインでデータの読み込み（Read）および書き込み（Write）ができます。

システム管理者が Volume Migration を実行すると、移動元のボリューム（ソースボリューム）の内容を移動先のボリューム（ターゲットボリューム）へコピーします。ボリュームのすべての内容は、移動先のボリュームにコピーされます。ボリュームのコピー中に書き込み I/O が発生して差分が生じると、ボリュームの差分テーブルに差分が記録されます。差分が発生すると、移動元のボリュームから移動先のボリュームへ差分だけをコピーし直します。この動作は、差分がなくなるまで繰り返されます。次の図は、ボリューム移動中のデータの流れを示したものです。



繰り返すコピー回数には上限があり、上限値は移動するボリュームの容量によって変わります。移動するボリュームの容量が大きいほど、繰り返すコピー回数の上限值は多くなります。コピーが繰り返されて上限値を超えても差分がなくなる場合は、ボリュームの移動が失敗します。この場合は、ホストからの負荷を下げても移動を行ってください。なお、ホストからの負荷の目安は、更新 I/O が 50IOPS 以下です。

ボリュームのコピーが行われている間、そのボリュームはホストからの I/O アクセスを受け付けませんが、移動先の領域はホストからの I/O アクセスを受け付けません。しかし、コピーが終わって移動元と移動先のデータが完全に同期すると、ホストのアクセスは移動元から移動先に転送され、移動先の領域はホストのアクセスを受け付けるようになります。ボリュームの移動はこの時点で完了します。



Volume Migration の要件

Volume Migration を使用するために必要な要件について説明します。

- 2.1 RAID Manager から Volume Migration を操作する場合のシステム要件
- 2.2 ボリュームの組み合わせの要件
- 2.3 Volume Migration のソースボリュームとして指定できる Thin Image Advanced の構成
- 2.4 Volume Migration のソースボリュームの注意事項
- 2.5 Volume Migration のターゲットボリュームの注意事項
- 2.6 コンカレントコピー (CC) ペアのボリューム
- 2.7 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームをソースボリュームやターゲットボリュームにする場合の注意事項
- 2.8 ボリューム移動に関する注意事項
- 2.9 同時に実行できるペア数

2.1 RAID Manager から Volume Migration を操作する場合のシステム要件

RAID Manager を利用して Volume Migration を操作するには、次が必要です。

- ストレージシステム
- 管理ツールの操作端末

RAID Manager のオプションのパラメータで設定できる範囲を次の表に示します。コマンドの詳細については『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。



メモ

NVMe over Fabrics 接続で、NVM サブシステムの Namespace として使用されている論理ボリュームを移動する場合は、RAID Manager から操作してください。RAID Manager による Volume Migration 操作の要件については、『RAID Manager ユーザガイド』を参照してください。

パラメータの内容	設定範囲
ミラー ID (MU#)	0~2

2.2 ボリュームの組み合わせの要件

ソースボリュームとターゲットボリュームの組み合わせは、次に示す条件をすべて満たす必要があります。



メモ

- ソースボリュームとターゲットボリュームは、LDEV ID で指定します (VOLSER や TID/LUN は使用できません)。
- Encryption License Key を使用してソースボリュームに暗号化を設定する場合は、ターゲットボリュームにも暗号化を設定してください。ターゲットボリュームに暗号化を設定しない場合、ターゲットボリュームのデータは暗号化されません。この場合、ターゲットボリュームのデータの機密性は保証できません。
- 同じストレージシステムによって管理されている (外部ボリュームを含む)。
- T10 PI 属性の設定が同じである。
- デバイスのエミュレーションタイプが同じである。
- ソースボリュームとターゲットボリュームの容量が、オープンシステムの場合は、ブロック単位で同じである。また、メインフレームの場合は、シリンダ単位で同じである。

2.3 Volume Migration のソースボリュームとして指定できる Thin Image Advanced の構成

Thin Image Advanced ペアを構成しているボリュームは、Volume Migration のソースボリュームに指定できません。

vClone 属性のボリュームは、Volume Migration のソースボリュームに指定できます。

ただし、その vClone 属性のボリュームが属する Thin Image Advanced の Family 内に、ShadowImage または Volume Migration で使用中のボリュームが存在する場合は、Volume Migration ペア作成ができません。

2.4 Volume Migration のソースボリュームの注意事項

ストレージシステム内のボリュームのうち、次のボリュームはソースボリュームにできません。

- コマンドデバイスとして設定されているボリューム
- Universal Replicator または Universal Replicator for Mainframe で使用しているジャーナルボリューム
- RAID Manager でボリューム移動操作をしているボリューム
- Thin Image Advanced ペアを構成しているボリューム
- Thin Image Advanced の vClone Parent 属性のボリューム
- Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe で使用しているプールボリューム
- クイックフォーマット中のボリューム
- global-active device の予約属性のボリューム
- global-active device の Quorum ディスクボリューム
- データダイレクトマップ属性が有効に設定された外部ボリューム
- 重複排除用システムデータボリューム
- 容量削減状態が Deleting Volume (nn %)、または Failed のボリューム
- コンカレントコピー (CC) 対象のボリューム
- Compatible FlashCopy[®] V2 のターゲットボリューム、または Compatible Software for IBM[®] FlashCopy[®] SE のターゲットボリュームで使用しているボリューム
- エミュレーションタイプが 3390-V のボリューム
- Soft Fence が設定されたボリューム
- TrueCopy for Mainframe の PPRC マルチターゲット機能を使用しているボリューム

関連参照

- [2.4.1 Volume Migration のソースボリュームにできる TrueCopy for Mainframe ペアの状態](#)
- [2.4.2 Volume Migration のソースボリュームにできる TrueCopy ペアの状態](#)
- [2.4.3 Volume Migration のソースボリュームにできる Universal Replicator for Mainframe ペアの状態](#)
- [2.4.4 Volume Migration のソースボリュームにできる Universal Replicator for Mainframe と TrueCopy for Mainframe とを併用する 3DC マルチターゲット構成とペアの状態](#)
- [2.4.5 Volume Migration のソースボリュームにできる Universal Replicator ペアの状態](#)
- [2.4.6 Volume Migration のソースボリュームにできる Universal Replicator と TrueCopy とを併用する 3DC マルチターゲット構成とペアの状態](#)
- [2.4.7 Volume Migration のソースボリュームにできる global-active device ペアの状態](#)
- [2.4.8 Volume Migration のソースボリュームにできる Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe で使用している仮想ボリューム](#)

- 2.4.9 Volume Migration のソースボリュームにできる ShadowImage ペアまたは ShadowImage for Mainframe ペアの状態と構成
- 2.4.10 Volume Migration のソースボリュームにできる Resource Partition Manager でリソースグループに割り当てられているボリューム
- 2.4.11 Volume Migration のソースボリュームにできる Data Retention Utility でアクセス属性が設定されているボリューム
- 2.4.12 Volume Migration のソースボリュームにできる Volume Retention Manager でアクセス属性が設定されているボリューム

2.4.1 Volume Migration のソースボリュームにできる TrueCopy for Mainframe ペアの状態

suspended または Duplex 状態になっていればソースボリュームにできます。それ以外の状態の場合は、ソースボリュームにできません。

- TrueCopy for Mainframe ペアを正サイトのストレージシステムから削除すると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームは simplex 状態（単一ボリューム）となり、ソースボリュームにできるようになります。
- TrueCopy for Mainframe ペアを副サイトのストレージシステムから削除すると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの状態はそれぞれ suspended、simplex 状態となり、どちらのボリュームもソースボリュームにできるようになります。

TrueCopy for Mainframe ペアを構成している Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームまたは内部ボリュームをソースボリュームに指定する場合、ターゲットボリュームは次の表を参考にして指定してください。

ボリューム移動前の TrueCopy for Mainframe ペア		ソースボリュームに指定する TrueCopy for Mainframe ペアのボリューム	ターゲットボリューム	
プライマリボリューム	セカンダリボリューム		内部ボリュームを指定する	Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームを指定する
内部ボリューム	内部ボリューム	プライマリボリューム	○	○
		セカンダリボリューム	○	△
	Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリューム	プライマリボリューム	△	○
		セカンダリボリューム	○	△
Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリューム	内部ボリューム	プライマリボリューム	○	○
		セカンダリボリューム	○	○
	Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリューム	プライマリボリューム	△	○
		セカンダリボリューム	○	○

(凡例)

- ：指定できる
- △：指定できるが推奨しない

2.4.2 Volume Migration のソースボリュームにできる TrueCopy ペアの状態

PSUS、PSUE、または PAIR 状態の TrueCopy ペアのボリュームは、ソースボリュームにできません。それ以外の状態のボリュームは、ソースボリュームにできないため、それらのボリュームをソースボリュームにしたい場合は、TrueCopy ペアを操作し、TrueCopy ペアのボリュームを PSUS、PSUE、または PAIR 状態にしてください。

TrueCopy では、プライマリボリュームが外部ボリュームでセカンダリボリュームが Dynamic Provisioning の仮想ボリュームの組み合わせは推奨しません。Volume Migration でボリュームを移動したあと、TrueCopy ペアがこの組み合わせにならないようご注意ください。Dynamic Provisioning の詳細は、『オープンシステム構築ガイド』を参照してください。なお、TrueCopy ペアを構成している Dynamic Provisioning の仮想ボリュームまたは外部ボリュームをソースボリュームに指定する場合、ターゲットボリュームは次の表を参考にして指定してください。

ボリューム移動前の TrueCopy ペア		ソースボリュームに指定する TrueCopy ペアのボリューム	ターゲットボリューム	
プライマリボリューム	セカンダリボリューム		外部ボリュームを指定する	Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを指定する
外部ボリューム	外部ボリューム	プライマリボリューム	○	○
		セカンダリボリューム	○	△
	Dynamic Provisioning の仮想ボリューム	プライマリボリューム	△	○
		セカンダリボリューム	○	△
Dynamic Provisioning の仮想ボリューム	外部ボリューム	プライマリボリューム	○	○
		セカンダリボリューム	○	○
	Dynamic Provisioning の仮想ボリューム	プライマリボリューム	△	○
		セカンダリボリューム	○	○

(凡例)

- ：指定できる
- △：指定できるが推奨しない

2.4.3 Volume Migration のソースボリュームにできる Universal Replicator for Mainframe ペアの状態

Pending duplex または Duplex 状態になっている場合、ソースボリュームにできません。

Universal Replicator for Mainframe で使用しているボリュームを移動する場合、同じ CLPR に属しているボリュームを移動先に指定してください。

Universal Replicator for Mainframe ペアを構成している Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームまたは内部ボリュームをソースボリュームに指定する場合、ターゲットボリュームは次の表を参考にして指定してください。

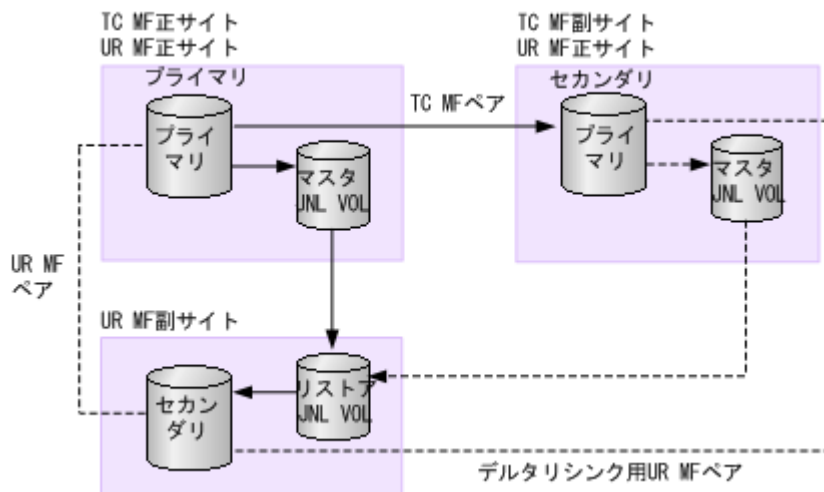
ボリューム移動前の Universal Replicator for Mainframe ペア		ソースボリュームに指定する Universal Replicator for Mainframe ペアのボリューム	ターゲットボリューム	
プライマリボリューム	セカンダリボリューム		内部ボリュームを指定する	Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームを指定する
内部ボリューム	内部ボリューム	プライマリボリューム	○	○
		セカンダリボリューム	○	△
	Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリューム	プライマリボリューム	△	○
		セカンダリボリューム	○	△
Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリューム	内部ボリューム	プライマリボリューム	○	○
		セカンダリボリューム	○	○
	Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリューム	プライマリボリューム	△	○
		セカンダリボリューム	○	○

(凡例)

- : 指定できる
- △ : 指定できるが推奨しない

2.4.4 Volume Migration のソースボリュームにできる Universal Replicator for Mainframe と TrueCopy for Mainframe とを併用する 3DC マルチターゲット構成とペアの状態

次の図のように Universal Replicator for Mainframe と TrueCopy for Mainframe とを併用した 3DC マルチターゲット構成でデルタシンクの設定をした場合、デルタシンク用 Universal Replicator for Mainframe ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームをソースボリュームにできます。



(凡例)

- TC MF: TrueCopy for Mainframe
- UR MF: Universal Replicator for Mainframe
- JNL VOL : ジャーナルボリューム
- P-VOL : プライマリボリューム
- S-VOL : セカンダリボリューム

ただし、3DC マルチターゲット構成のそれぞれのペアの状態は、次の各表に示す状態にしてください。

デルタリシンク用 Universal Replicator for Mainframe ペアのプライマリボリュームをソースボリュームにするときの各ペア状態を次の表に示します。

ペアの名称	状態
TrueCopy for Mainframe ペア	SUSPEND または DUPLEX
Universal Replicator for Mainframe ペア	任意
デルタリシンク用 Universal Replicator for Mainframe ペア	Hold または Hlde

デルタリシンク用 Universal Replicator for Mainframe ペアのセカンダリボリュームをソースボリュームにするときの各ペア状態を次の表に示します。

ペアの名称	状態
TrueCopy for Mainframe ペア	任意
Universal Replicator for Mainframe ペア	SUSPEND
デルタリシンク用 Universal Replicator for Mainframe ペア	Hold または Hlde



注意

3つの Universal Replicator for Mainframe サイトによる 3DC マルチターゲット構成および 3DC カスケード構成で、2つの Universal Replicator for Mainframe ペアが共有しているボリュームを、Volume Migration で使用するボリュームとして指定できません。また、Volume Migration で使用しているボリュームを、2つの Universal Replicator for Mainframe ペアが共有するボリュームとして使用できません。

2.4.5 Volume Migration のソースボリュームにできる Universal Replicator ペアの状態

COPY または PAIR 状態になっている Universal Replicator ペアのボリュームは、ソースボリュームにできません。それ以外の状態のボリュームは、ソースボリュームにできます。

Universal Replicator で使用しているボリュームを使用して移動する場合、同じ CLPR に属しているボリュームを移動先に指定してください。

Universal Replicator では、プライマリボリュームが外部ボリュームでセカンダリボリュームが Dynamic Provisioning の仮想ボリュームの組み合わせは推奨しません。ボリュームを移動したあと、Universal Replicator ペアがこの組み合わせにならないようご注意ください。なお、Universal Replicator ペアを構成している Dynamic Provisioning の仮想ボリュームまたは外部ボリュームをソースボリュームに指定する場合、ターゲットボリュームは次の表を参考にして指定してください。

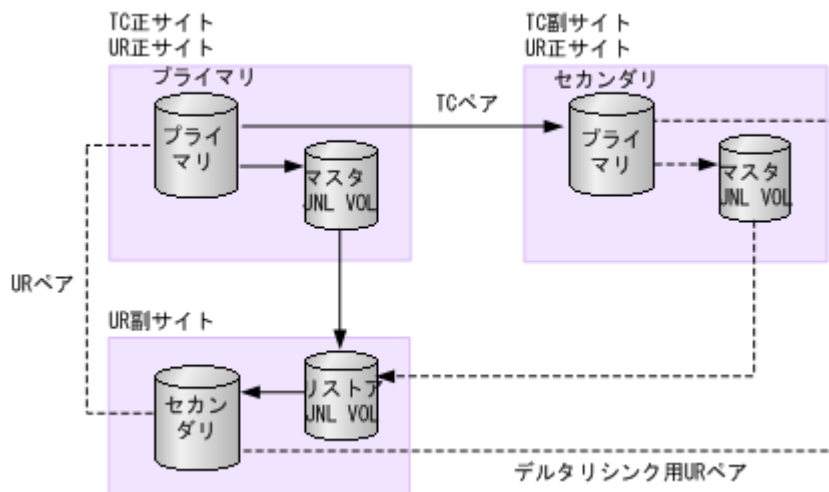
ボリューム移動前の Universal Replicator ペア		ソースボリュームに指定する Universal Replicator ペアのボリューム	ターゲットボリューム	
プライマリボリューム	セカンダリボリューム		外部ボリュームを指定する	Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを指定する
外部ボリューム	外部ボリューム	プライマリボリューム	○	○
		セカンダリボリューム	○	△
	Dynamic Provisioning の仮想ボリューム	プライマリボリューム	△	○
		セカンダリボリューム	○	△
Dynamic Provisioning の仮想ボリューム	外部ボリューム	プライマリボリューム	○	○
		セカンダリボリューム	○	○
	Dynamic Provisioning の仮想ボリューム	プライマリボリューム	△	○
		セカンダリボリューム	○	○

(凡例)

- : 指定できる
- △ : 指定できるが推奨しない

2.4.6 Volume Migration のソースボリュームにできる Universal Replicator と TrueCopy とを併用する 3DC マルチターゲット構成とペアの状態

次の図のように Universal Replicator と TrueCopy とを併用した 3DC マルチターゲット構成でデルタリシンクの設定をした場合、デルタリシンク用 Universal Replicator ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームをソースボリュームにできます。



(凡例)

TC : TrueCopy

UR : Universal Replicator

JNL VOL : ジャーナルボリューム

P-VOL : プライマリボリューム

S-VOL : セカンダリボリューム

ただし、3DC マルチターゲット構成のそれぞれのペアの状態は、次の各表に示す状態にしてください。

デルタリシンク用 Universal Replicator ペアのプライマリボリュームをソースボリュームにするときの各ペア状態を次の表に示します。

ペアの名称	状態
TrueCopy ペア	PSUS または PAIR
Universal Replicator ペア	任意
デルタリシンク用 Universal Replicator ペア	PJNS または PJES (ミラーの状態)

デルタリシンク用 Universal Replicator ペアのセカンダリボリュームをソースボリュームにするときの各ペア状態を次の表に示します。

ペアの名称	状態
TrueCopy ペア	任意
Universal Replicator ペア	PSUS
デルタリシンク用 Universal Replicator ペア	SJNS (ミラーの状態)



注意

3つの Universal Replicator サイトによる 3DC マルチターゲット構成および 3DC カスケード構成で、2つの Universal Replicator ペアが共有しているボリュームを、Volume Migration で使用するボリュームとして指定できません。また、Volume Migration で使用しているボリュームを、2つの Universal Replicator ペアが共有するボリュームとして使用できません。

2.4.7 Volume Migration のソースボリュームにできる global-active device ペアの状態

PSUS、PSUE、SSUS または SSWS 状態の global-active device ペアのボリュームは、ソースボリュームにできます。それ以外の状態のボリュームは、ソースボリュームにできません。

global-active device では、プライマリボリュームとセカンダリボリュームが同じボリューム属性 (raidcom get ldev コマンドで表示される VOL_ATTR) であることが必要です。Volume Migration によってボリュームを移動したあと、global-active device ペアが異なるボリューム属性の組み合わせにならないようご注意ください。

global-active device ペアのボリュームと ShadowImage ペアのボリュームを共有している場合、ShadowImage ペアの Quick Restore 中はソースボリュームにできません。Quick Restore の完了後に、Volume Migration の操作をしてください。

2.4.8 Volume Migration のソースボリュームにできる Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe で使用している仮想ボリューム

Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームをソースボリュームとした場合、ソースボリュームと同じプールを使用する Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームは、ターゲットボリュームには指定できません※。

注※

RAID Manager だけでソースボリュームと同じプールを使用する Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを、ターゲットボリュームに指定できます。同じプールを使用する場合は、プールに対する負荷が上昇しやすくなるため、ストレージシステムの負荷が低い状態で実施することを推奨します。

重複排除用システムデータボリュームを、ソースボリュームおよびターゲットボリュームに指定できません。

容量削減状態が Deleting Volume (nn %)、または Failed のボリュームを、ソースボリュームおよびターゲットボリュームに指定できません。

ソースボリュームまたはターゲットボリュームとして使用できる Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの最大容量は、Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの最大容量と同じです。Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの最大容量については、『オープンシステム構築ガイド』または『メインフレームシステム構築ガイド』を参照してください。

関連参照

- [2.7 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームをソースボリュームやターゲットボリュームにする場合の注意事項](#)

2.4.9 Volume Migration のソースボリュームにできる ShadowImage ペア または ShadowImage for Mainframe ペアの状態と構成

ShadowImage ペアまたは ShadowImage for Mainframe ペアのボリュームをソースボリュームにできるかどうかは、次のようにペアの状態や構成によって決まります。

- ペアの状態が次に示す場合は、ソースボリュームにできません。
メインフレームシステムのボリュームペア：SP-Pend/TRANS、V-Split/SUSPVS
オープンシステムのボリュームペア：COPY(SP)/COPY、PSUS(SP)/PSUS
- カスケード構成をとっていないペアのボリュームをソースボリュームにできるかどうかは、次の表のとおりです。

ペアの構成	プライマリボ リューム	セカンダリボ リューム
プライマリボリュームとセカンダリボリュームの比率が 1:1 の場合	○	○
プライマリボリュームとセカンダリボリュームの比率が 1:2 の場合	○	○
プライマリボリュームとセカンダリボリュームの比率が 1:3 の場合	×	○

(凡例)

- ：ソースボリュームにできる
- ×：ソースボリュームにできない

- カスケード構成をとっているペアのボリュームをソースボリュームにできるかどうかは、次の表のとおりです。

ペアの構成	プライマリボ リューム	セカンダリボ リューム
L1 ペアで、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの比率が 1:1 の場合	○	○
L1 ペアで、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの比率が 1:2 の場合	○	○
L1 ペアで、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの比率が 1:3 の場合	×	○
L2 ペアで、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの比率が 1:1 の場合	○	×
L2 ペアで、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの比率が 1:2 の場合	×	×

(凡例)

- ：ソースボリュームにできる
- ×：ソースボリュームにできない

2.4.10 Volume Migration のソースボリュームにできる Resource Partition Manager でリソースグループに割り当てられているボリューム

Resource Partition Manager を使用しているときには、リソースグループに所属しているボリュームをソースボリュームまたはターゲットボリュームとして Volume Migration を実行できます。た

だし、Resource Partition Manager の使用状況によっては Volume Migration を実行できない場合があります。Volume Migration を実行できるかどうかは、次の表のとおりです。

ソースボリュームが所属するリソースグループ	ターゲットボリュームが所属するリソースグループ	
	ユーザが所属するユーザグループに割り当てられている	ユーザが所属するユーザグループに割り当てられていない
ユーザが所属するユーザグループに割り当てられている	○	×
ユーザが所属するユーザグループに割り当てられていない	×	×

(凡例)

- : 実行できる
- × : 実行できない



ヒント

メインフレームシステムを使用する場合、ホストからアクセスできるリソースグループは1つだけです。したがって、ホストからアクセスできるリソースグループに所属しているボリュームを、ソースボリュームおよびターゲットボリュームに指定することを推奨します。

Resource Partition Manager の詳細については『オープンシステム構築ガイド』または『メインフレームシステム構築ガイド』を参照してください。

2.4.11 Volume Migration のソースボリュームにできる Data Retention Utility でアクセス属性が設定されているボリューム

Data Retention Utility でアクセス属性を設定したボリュームをソースボリュームにできます。ただし、ターゲットボリュームのアクセス属性によっては Volume Migration の操作ができない場合もあります。Data Retention Utility でアクセス属性を設定したボリュームに対して Volume Migration のボリューム移動操作ができるかどうかについては、次の表を参照してください。

ソースボリュームのアクセス属性	ターゲットボリュームのアクセス属性	RAID Manager からの操作	
		paircreate	pairsplit -S
Read/Write 属性、Read Only 属性、Protect 属性、副 VOL 拒否属性	Read/Write 属性	○	○
	Read Only 属性	×	○
	Protect 属性	×	○
	副 VOL 拒否属性	×	○

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない



メモ

Volume Migration の操作によって、ソースボリュームとターゲットボリュームが入れ替わりますが、それによってソースボリュームとターゲットボリュームのアクセス属性が入れ替わることはありません。

関連参照

- (1) [Volume Migration の状態と Data Retention Utility で設定できるアクセス属性](#)

(1) Volume Migration の状態と Data Retention Utility で設定できるアクセス属性

Volume Migration の状態によっては、Volume Migration のソースボリュームまたはターゲットボリュームに対して Data Retention Utility でアクセス属性を設定できない場合があります。Volume Migration のペアに対してアクセス属性が設定できるかどうかについては、次の表を参照してください。

Volume Migration で指定したボリューム		設定するアクセス属性				
ペアの状態	ボリューム	Read/Write 属性	Read Only 属性	Protect 属性	副 VOL 拒否属性	
RAID Manager から作成したペア	COPY	ソースボリューム	○	×	×	×
		ターゲットボリューム	○	×	×	×
	PSUS	ソースボリューム	○	×	×	×
		ターゲットボリューム	○	×	×	×
	PSUE	ソースボリューム	○	×	×	×
		ターゲットボリューム	○	×	×	×

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない

2.4.12 Volume Migration のソースボリュームにできる Volume Retention Manager でアクセス属性が設定されているボリューム

Volume Retention Manager でアクセス属性を設定したボリュームをソースボリュームにできません。ただし、ターゲットボリュームのアクセス属性によっては Volume Migration の操作ができない場合もあります。Volume Retention Manager でアクセス属性を設定したボリュームに対して Volume Migration のボリューム移動操作ができるかどうかについては、次の表を参照してください。

ソースボリュームのアクセス属性	ターゲットボリュームのアクセス属性	RAID Manager からの操作	
		paircreate	pairsplit -S
Read/Write 属性、Read Only 属性、Protect 属性	Read/Write 属性	○	○
	Read Only 属性	×	○
	Protect 属性	×	○

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない



メモ

Volume Migration の操作によって、ソースボリュームとターゲットボリュームが入れ替わりますが、それによってソースボリュームとターゲットボリュームのアクセス属性が入れ替わることはありません。

Volume Migration のソースボリュームまたはターゲットボリュームに対して Volume Retention Manager でアクセス属性を設定できます。ただし、ソースボリュームまたはターゲットボリュームに対して Read Only 属性あるいは Protect 属性を設定すると、移動が停止するか、失敗することがあります。

2.5 Volume Migration のターゲットボリュームの注意事項

次に示すボリュームは、ターゲットボリュームに指定できません。

- コマンドデバイス(ホストが使用するために予約されているデバイス)として設定されているボリューム
- ShadowImage、ShadowImage for Mainframe、またはリモートコピー (TrueCopy または TrueCopy for Mainframe) のペアに割り当てられているボリューム
- Universal Replicator または Universal Replicator for Mainframe で使用しているボリューム (データボリュームおよびジャーナルボリューム)
- Data Retention Utility で Read Only 属性または Protect 属性を設定されたボリューム、または副ボリュームとして使用できないように設定されたボリューム
- RAID Manager でボリューム移動操作をしているボリューム
- Thin Image Advanced ペアを構成しているボリューム
- Thin Image Advanced の vClone Parent 属性のボリュームおよび vClone 属性のボリューム
- Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe で使用しているプールボリューム
- 異常な状態のボリューム、またはアクセスできない状態のボリューム
- クイックフォーマット中のボリューム
- LU パスが設定されていない、または NVMe の Namespace として設定されていないボリューム
- global-active device ペアを構成しているボリュームおよび global-active device の予約属性のボリューム
- global-active device の Quorum ディスクボリューム
- データダイレクトマップ属性が有効に設定された外部ボリューム
- 重複排除用システムデータボリューム
- 容量削減状態が Deleting Volume (nn %)、または Failed のボリューム
- コンカレントコピー (CC) 対象のボリューム
- Compatible FlashCopy® V2、または Compatible Software for IBM® FlashCopy® SE で使用しているボリューム
- エミュレーションタイプが 3390-V のボリューム
- Soft Fence が設定されたボリューム
- TrueCopy for Mainframe の PPRC マルチターゲット機能を使用しているボリューム

2.6 コンカレントコピー（CC）ペアのボリューム

コンカレントコピー（CC）ペアのボリュームをソースボリュームまたはターゲットボリュームとして Volume Migration ペアを作成することはできません。

Volume Migration ペア作成後に Volume Migration のボリュームを指定して、コンカレントコピーペアを作成することはできますが Volume Migration の移動処理は中断します。

2.7 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームをソースボリュームやターゲットボリュームにする場合の注意事項

Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームをソースボリュームやターゲットボリュームにする場合の注意事項について説明します。

- ソースボリュームまたはターゲットボリュームに ESE-VOL を使用する場合、Volume Migration を実行できるのは、次の両方の条件を満たしているときだけです。それ以外の場合は、Volume Migration を実行できません。
 - ソースボリュームとターゲットボリュームが ESE-VOL 同士
 - システムオプションモード 1256 がオンに設定されていない場合、ソースボリュームとターゲットボリュームが属するプール ID と CU 番号が、偶数同士または奇数同士
- 移動先の Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームに対応するプールの状態によって、警告メッセージが表示されたり、Volume Migration を実行できなかったりすることがあります。ソースボリュームとターゲットボリュームの組み合わせごとに、Volume Migration を実行できるかどうかを、次の表に示します。

ソースボリューム		外部ボリュームがターゲットボリューム	DP-VOL※がターゲットボリューム				
			正常			閉塞	プール満杯
			正常	移動後のデータのサイズがプールのしきい値を超える場合	移動後にボリュームが満杯になる場合		
外部ボリュームがソースボリューム		○	○	○	×	×	×
DP-VOL がソースボリューム	正常	○					
	閉塞	×	×	×			
	プール満杯	○	○	○			

(凡例)

- ：実行できる
- ×：実行できない

注※

DP-VOL は、Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe で使用する仮想ボリュームを示します。

- Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の容量拡張と Volume Migration による移動操作との関係を次の表に示します。

移動元ボリューム		移動先ボリューム		Volume Migration の操作	
ボリューム	容量の拡張	ボリューム	容量の拡張	ボリューム移動を実行	ボリューム移動をキャンセル
DP-VOL ^{※1}	容量の拡張中	DP-VOL ^{※1}	容量の拡張中	× ^{※2}	×
			容量の拡張が終了、または容量を拡張していない	× ^{※2}	×
		通常ボリューム ^{※3} または外部ボリューム	なし	× ^{※2}	×
	容量の拡張が終了、または容量を拡張していない	DP-VOL ^{※1}	容量の拡張中	× ^{※2}	×
			容量の拡張が終了、または容量を拡張していない	○	○
		通常ボリューム ^{※3} または外部ボリューム	なし	○	○
通常ボリューム ^{※3} または外部ボリューム	なし	DP-VOL ^{※1}	容量の拡張中	× ^{※2}	×
			容量の拡張が終了、または容量を拡張していない	○	○
		通常ボリューム ^{※3} または外部ボリューム	なし	○	○

(凡例)

- ：操作できる
- ×：操作できない

注※1

DP-VOL は、Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe で使用する仮想ボリュームを示します。

注※2

容量の拡張処理が終了したことを確認してから、拡張後のボリュームと同じ容量のボリュームを指定して、再度ボリュームを移動してください。

注※3

通常ボリュームは、メインフレームでのみサポートしています。

- ボリュームの容量が 4,194,304MB (8,589,934,592block) より大きい Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを使用して Volume Migration ペアを作成する場合、差分データは Volume Migration ペアのソースボリュームおよびターゲットボリュームが関連づけられているプール

で管理されます。この場合、ボリュームの容量 4,123,168,604,160 バイトごとに、差分管理データ用のプール容量（最大 4 ページ）が必要です。差分管理データ用のプール容量はプログラムプロダクトの構成によって異なります。

- ボリュームの容量が 262,668Cyl より大きい **Dynamic Provisioning for Mainframe** の仮想ボリュームを使用して **Volume Migration** ペアを作成するとき、差分データは **Volume Migration** ペアのソースボリュームおよびターゲットボリュームが関連づけられているプールで管理されます。この場合、ボリュームの容量 4,096Cyl ごとに、差分管理データ用のプール容量が 1 ページが必要です。
- ゼロデータページ破棄（**Write Same/Unmap** コマンドまたはリバランスによるゼロデータページ破棄を含む）の処理中に **Volume Migration** のペア作成を実施すると、ゼロデータページ破棄が中断されます。
- **Volume Migration** ペアの作成時に、ソースボリュームまたはターゲットボリュームで、ゼロデータページ破棄が動作していると、ペア作成が失敗する場合があります。このため、ペアを作成する場合は、ゼロデータページ破棄が動作している時間を避けてください。
- **Volume Migration** ペアのソースボリュームまたはターゲットボリュームに対して **Write Same/Unmap** コマンドが発行された場合、**Write Same/Unmap** コマンドによるゼロデータページ破棄は実施されません。
- リバランスが動作しても **Volume Migration** ペアのソースボリュームまたはターゲットボリュームに対してリバランスによるゼロデータページ破棄は実施されません。
- ソースボリュームに通常ボリュームまたは外部ボリュームを使用し、ターゲットボリュームに **Dynamic Provisioning** または **Dynamic Provisioning for Mainframe** の仮想ボリューム（**DP-VOL**）を使用する場合、ターゲットボリュームである **DP-VOL** の全領域には、ページが割り当てられます。
- ターゲットボリュームに **DP-VOL** を使用する場合、ターゲットボリュームが属するプールが満杯になると、**Volume Migration** によるボリュームの移動が失敗します。ターゲットボリュームが属するプールに十分な空き容量があることを事前に確認してからボリュームを移動してください。

2.8 ボリューム移動に関する注意事項

- システム管理者はディスク利用率やプロセッサ利用率、アクセスパス利用率を分析して、**Volume Migration** を実行してください。ボリュームを移動すると、ストレージシステム内の一部の領域ではパフォーマンスが改善されますが、他の領域ではパフォーマンスが低下するため、ストレージシステム全体のパフォーマンスが改善されない場合があります。例えば、平均利用率が 90 パーセントのパリティグループ A から、平均利用率が 20 パーセントのパリティグループ B へとボリュームを移動する場合、推定利用率がそれぞれ 55 パーセントのときに、この移動操作を実行すると、パリティグループ A の I/O レスポンスタイムは短縮されますが、パリティグループ B の I/O レスポンスタイムは増加するおそれがあります。そのため、結果的には全体のスループットは向上しません。また、パリティグループやボリュームの利用率に差がない場合、または **MP** 利用率が全体的に高い場合には、**Volume Migration** でシステムをチューニングしても効果がないこともあります。



メモ

Dynamic Provisioning の仮想ボリュームは、次のボリュームに移動できます。

- 外部ボリューム
- **Dynamic Provisioning** の仮想ボリューム

また、外部ボリュームは移動できますが、利用率を測定できないため、移動後の利用率を予測できません。

ストレージシステムにエラーが発生していると、リソースの利用率が高まるか、不安定になるおそれがあります。Volume Migration を実行するときは、エラー状態が続いている間に収集されたストレージシステムのモニタデータを利用しないでください。

- ファームウェアの交換後にサポートされなくなる機能を、ファームウェアの交換中に操作しないでください。
- Volume Migration のペア削除操作後に、ボリューム移動操作やイベント待ち合わせなどのコマンドを実行する場合、ペア削除が完了するまでの時間（推奨時間は 10 秒）を置いてください。時間をおかないで操作を実施した場合、操作が異常終了するおそれがあります。Volume Migration ペアの削除完了を確認する場合は、raidcom get ldev コマンドの VOL_ATTR が ALUN ではないことを確認してください。
- RAID Manager を使用してボリュームの移動または移動のキャンセルの操作をした場合、DKC 内の条件によっては、[EX_CMDRJE] と表示されてコマンドが拒否されることがあります。
- ソースボリュームへのデータ更新が多い状況で、Volume Migration を実行する場合は、次のシステムオプションモードに注意してください。なお、容量が 4TB を超える Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを使用する場合、システムオプションモード 899 が ON かつシステムオプションモード 900 が ON のときと同じ動作となります。

システムオプションモード 899 (デフォルト ON)	システムオプションモード 900 (デフォルト OFF)	動作内容
OFF	OFF	ソースボリュームにデータ更新があった場合、ターゲットボリュームに対して非同期コピーを実施します。*1
OFF	ON	ソースボリュームにデータ更新があった場合、非同期コピーを実施しますが、非同期コピーのリトライしきい値*3の 1/2 を超えると同期コピーに動作が切り替わります。
ON	OFF	ソースボリュームにデータ更新があった場合、非同期コピーを実施しますが、非同期コピーのリトライしきい値*3を超えると同期コピーに動作が切り替わります。
ON	ON	ソースボリュームにデータ更新があった場合、ターゲットボリュームに対して同期コピーを実施します。*2

注※1

ホストの I/O 性能への影響を抑えられますが、ボリュームの移動が完了するまでに時間がかかります。

注※2

ボリュームの移動が完了するまでにかかる時間は短くなりますが、ホストの I/O 性能への影響が大きくなります。

注※3

非同期コピーのリトライしきい値を次の表に示します。

ソースボリュームのロット数	リトライしきい値 (回)
0 < ソースボリュームのロット数 ≤ 4,0960	20

1 ボリュームの移動に必要な差分テーブルおよびペアテーブルの枚数は、そのボリュームの容量によって異なります。

ボリュームを移動させる場合に必要な差分テーブルの枚数およびペアテーブル枚数については、関連項目を参照して計算してください。

ペアをどれだけ同時に実行できるかは、これらの条件を次に示す条件式に当てはめると算出できます。

同時に実行できるペア数の条件式

ボリュームの移動に必要な差分テーブル枚数の合計 ≤ ストレージシステム内の差分テーブル枚数
かつ

ボリュームの移動に必要なペアテーブル枚数の合計 ≤ ストレージシステム内のペアテーブル枚数
を満たす最大のペア数

計算例

3,019,898,880 キロバイトのボリュームのペアを 20 個作成する場合、1 ボリュームの移動に使用する差分テーブル枚数およびペアテーブル枚数は、関連項目を参照して計算すると差分テーブル枚数は 577 枚になり、ペアテーブル枚数は 17 枚になります。これを条件式に適用してみると、次の計算結果となり、すべてのボリュームペアを同時に実行できることがわかります。

$$[(577 \times 20) = 11,540] \leq 26,176 \text{ かつ } [(17 \times 20) = 340] \leq 8,192$$

ここでは、Volume Migration だけを使用した場合の同時に実行できるペア数を計算しています。Volume Migration と ShadowImage で、差分テーブルやペアテーブルを共用する場合、Volume Migration 以外の製品が使用する差分テーブル枚数およびペアテーブル枚数も算出し、すべての差分テーブル枚数の合計が、ストレージシステム内の差分テーブル枚数、ストレージシステム内のペアテーブル枚数の値以内になる必要があります。Volume Migration 以外の製品が使用する差分テーブル枚数およびペアテーブル枚数の算出方法については、各プログラムプロダクトのマニュアルを参照してください。

関連概念

- [5.5 お問い合わせ先](#)

関連参照

- [2.9.2 メインフレームシステムのボリューム移動時に使用する差分テーブル枚数およびペアテーブル枚数](#)
- [2.9.3 オープンシステムのボリューム移動時に使用する差分テーブル枚数およびペアテーブル枚数](#)

2.9.2 メインフレームシステムのボリューム移動時に使用する差分テーブル枚数およびペアテーブル枚数

メインフレームのボリュームを移動させる場合、1 ペアあたりに必要な差分テーブル枚数およびペアテーブル枚数を算出するには、次の式を使用します。ただし、容量が 223GB (262,668Cyl) を超えるボリュームを使用する場合は差分テーブルを使用しないため、次に示す計算は不要です。

$$1 \text{ ペアあたりの差分テーブル枚数} = \uparrow ((\text{ボリュームのシリンダ数}^{\ast}) + (\text{最大制御シリンダ数})) \times 15 \div (\text{差分テーブル 1 枚当たりで管理できるスロット数 (20,448)}) \uparrow$$

↑：小数点以下の端数を切り上げることを示します。

注※

VLL 機能でボリュームを分割した場合は、分割後のボリュームのシリンダ数。

計算例を次に示します。

エミュレーションタイプ 3390-3 で、ボリュームのシリンダ数（上記の式の(X)）が 3,339 本の場合、1 ペア当たりの差分テーブル枚数は次のように計算します。

$$(3,339 + 21) \times 15 \div (20,448) = 2.464788732$$

2.464788732 の小数点以下の端数を切り上げると 3 となります。よって、エミュレーションタイプ 3390-3 の場合、1 ペア当たりの差分テーブルの枚数は 3 枚であることがわかります。

また、ペアテーブル枚数は差分テーブル 36 枚に対して 1 枚使用します。上記のエミュレーションタイプ 3390-3 の場合に使用する 1 ペア当たりのペアテーブル枚数は 1 枚になります。エミュレーションタイプ 3390-M でボリュームのシリンダ数がデフォルト値の場合は、ペアテーブル枚数は 2 枚になります。

エミュレーションタイプごとの最大制御シリンダ数を次の表に示します。

エミュレーションタイプ	最大制御シリンダ数
3380-3	35
3380-3A	7
3380-3B	7
3380-3C	7
3390-1	19
3390-2	27
3390-3	34
3390-9	95
3390-L	233
3390-M	466
6586-G	19
6586-J	11
6586-K	28
6586-KA	7
6586-KB	7
6586-KC	7
6588-1	19
6588-3	44
6588-9	95
NF80-KA	21
NF80-KB	21
NF80-KC	21
3390-3A	6
3390-3B	6

エミュレーションタイプ	最大制御シリンダ数
3390-3C	6
6588-3A	16
6588-3B	16
6588-3C	16
6588-9A	25
6588-9B	25
6588-9C	25
3390-9A	25
3390-9B	25
3390-9C	25
3390-LA	23
3390-LB	23
3390-LC	23
3390-MA	53
3390-MB	53
3390-MC	53
6588-L	233
6588-LA	23
6588-LB	23
6588-LC	23
6588-M	466
6588-MA	53
6588-MB	53
6588-MC	53
3390-A	1652
6588-A	466
3380-A	35
6586-A	28

関連参照

- ・ [2.9.1 同時に実行できるペア数の計算方法](#)

2.9.3 オープンシステムのボリューム移動時に使用する差分テーブル枚数およびペアテーブル枚数

オープンシステムのボリュームを移動させる場合、1 ペアあたりに必要な差分テーブル枚数およびペアテーブル枚数を算出する方法を次に示します。ただし、容量が 4TB を超える Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを使用する場合は差分テーブルを使用しないため、次に示す計算は不要です。

$$1 \text{ ペアあたりの差分テーブル枚数} = \lceil ((\text{ボリュームの容量}^* (\text{キロバイト})) \div 256) \div (\text{差分テーブル 1 枚あたりで管理できるスロット数} (20,448)) \rceil$$

↑：小数点以下の端数を切り上げることを示します。

注※

VLL 機能でボリュームを分割した場合は、分割後のボリュームの容量になります。

計算例を次に示します。

ボリュームの容量が 3,019,898,880 キロバイトの場合、1 ペア当たりの差分テーブル枚数とペアテーブル枚数は次のように計算します。

$$(3,019,898,880 \div 256) \div 20,448 = 576.9014085$$

576.9014085 の小数点以下の端数を切り上げると 577 となります。よって、1 ペア当たりの差分テーブルの枚数は 577 枚であることがわかります。

また、ペアテーブル枚数は差分テーブル 36 枚に対して 1 枚使用します。よって、1 ペア当たりのペアテーブル枚数は 17 枚になります。

関連参照

- [2.9.1 同時に実行できるペア数の計算方法](#)

ボリュームの移動

RAID Manager を使った、ボリュームの移動手順について説明します。

- 3.1 ボリュームの移動手順

3.1 ボリュームの移動手順

RAID Manager のコマンドを使用してボリュームを移動する手順を、例を使って説明します。この例では、構成定義ファイル中のグループ名を `group1`、移動の対象となるペアのボリューム名を `pair1` としています。なお、RAID Manager の操作方法については、『RAID Manager ユーザガイド』を参照してください。



注意

ソースボリュームに対して次の操作を実行すると、移動処理が中断します。

- コンカレントコピー (CC) の操作
- ボリュームを `Suspended` 以外の状態にするような `TrueCopy for Mainframe` 操作
- ボリュームの状態を `SP-Pend/TRANS` または `V-Split/SUSPVs` にするような `ShadowImage for Mainframe` 操作
- ボリュームを `COPY(SP)` または `PSUS(SP)` の状態にするような `ShadowImage` 操作
- ボリュームを `PSUS` 以外の状態にするような `Universal Replicator` および `Universal Replicator for Mainframe` の操作
- ボリュームを `PSUS/PSUE/PAIR` 以外の状態にするような `TrueCopy` の操作

前提条件

ソースボリュームとターゲットボリュームの要件を満たしていること。

操作手順

1. RAID Manager を起動します。
2. SMPL のペアに対して次に示すコマンドを入力して、ボリューム移動を開始します。

```
paircreate -g group1 -d pair1 -m cc -v1
```

ボリューム移動が開始すると、ペアの状態が `COPY` に変化します。

3. 次に示すコマンドを入力して、ペアの状態を確認します。

```
pairdisplay -g group1 -d pair1 -fcex
```

ボリューム移動が完了すると、ペアの状態が `PSUS` になります。ボリューム移動に失敗した場合は、ペアの状態が `PSUE` になります。

4. ペアの状態が `PSUS` または `PSUE` になったら、次に示すコマンドを入力してペア削除を行ってください。

```
pairsplit -S -g group1 -d pair1
```



メモ

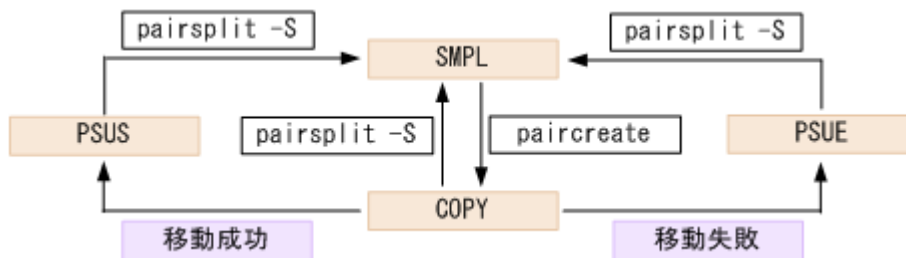
手順 3 でペアの状態が `PSUE` となって移動に失敗した場合は、手順 2 から手順 4 を再操作してください。アラートが表示されている場合は、アラートを確認し、障害を回復してから、手順 2 から手順 4 を再操作してください。再操作しても、ペアの状態が `PSUE` となる場合は、お問い合わせください。



メモ

ボリューム移動中に `pairsplit -S` コマンドを入力すると、ボリューム移動を中断できます。

RAID Manager を使用してボリュームを移動した場合の、移動対象のペアの状態遷移図を次に示します。図中のペアの状態は、RAID Manager で pairdisplay コマンドを入力したときに表示されるものです。



4

保守

ボリューム移動後の保守について説明します。

- 4.1 ストレージシステム保守作業中の注意事項
- 4.2 ストレージシステムの電源を切るときの注意事項

4.1 ストレージシステム保守作業中の注意事項

ストレージシステムの保守作業中（ドライブの増設、交換、撤去、キャッシュメモリの交換、その他の構成変更、またはファームウェア交換）は、Volume Migration の操作を実行しないでください。このような状況で Volume Migration の操作を実行すると、失敗するおそれがあります。



注意

保守作業での Modify モード設定と、Volume Migration のボリューム移動操作が競合すると、Volume Migration の処理が完了せず、ボリュームが移動中のままになってしまうおそれがあります。このような場合には保守員に連絡し、Modify モードから View モードに変更してください。

4.2 ストレージシステムの電源を切るときの注意事項

ストレージシステムの電源を切るときには、ボリュームの移動が完了しているかどうかを確認してください。ボリュームの移動が完了していない場合は、移動の完了を待ってから電源を切ることを強くお勧めします。

ボリュームの移動中に電源を切るとデータの移動が途中で打ち切れ、再び電源を入れるとデータの移動が再開されます。電源を入れたときにシェアドメモリ上のデータが揮発していなければ、Volume Migration はまだ移動されていないデータだけを移動先にコピーします。しかし、シェアドメモリ上のデータが揮発していると、Volume Migration はまだ移動されていないデータをコピーするだけでなく、すでに移動したデータも再びコピーしようとするので、コピー操作に多くの時間がかかってしまいます。

Volume Migration のトラブルシューティング

この章では、RAID Manager による、Volume Migration 使用時のトラブルシューティングについて説明します。

- 5.1 ボリュームの移動が完了するまでに時間がかかる場合の対処
- 5.2 ストレージシステムの負荷が高い状態でのボリューム移動に関するトラブルへの対処と他のプログラムプロダクトへの影響
- 5.3 ボリュームの移動で障害が発生した場合の対処
- 5.4 RAID Manager 使用時のトラブルシューティング
- 5.5 お問い合わせ先

5.1 ボリュームの移動が完了するまでに時間がかかる場合の対処

ボリュームの移動が完了するまでに時間がかかる場合は、ボトルネックが原因であるときがあります。次の表に挙げる原因について対処すると、ボトルネックが発生しなくなり、コピー処理時間が短くなる場合があります。

原因	対処方法
ShadowImage の Host I/O Performance オプションが有効になっている。	ShadowImage の Host I/O Performance オプションを無効にしてください。※1
ShadowImage for Mainframe の Host I/O Performance オプションが有効になっている。	ShadowImage for Mainframe の Host I/O Performance オプションを無効にしてください。※2
ターゲットボリュームのドライブまたは外部ストレージが、ソースボリュームに比べて性能が低い。	構成を見直してください。
ソースボリュームとターゲットボリュームが割り当てられた MP ユニット内に、MP 稼働率が 80%を超えているプロセッサがある。※3	構成を見直してください。
ターゲットボリュームのドライブまたは外部ストレージで何らかのエラーが発生している。	ターゲットボリュームのドライブまたは外部ストレージのエラーを取り除いてください。
ソースボリュームのドライブまたは外部ストレージで何らかのエラーが発生している。	ソースボリュームのドライブまたは外部ストレージのエラーを取り除いてください。
ターゲットボリュームが属する MP ユニットのキャッシュライトペンディング率が 60%を超えている。	構成を見直してください。
データ削減共有ボリュームであるターゲットボリュームが属するプールの空き容量が 120GB 以下である。	構成を見直してください。 また、Dynamic Provisioning プール障害に関する SIM (DP プール実使用率満杯: SIM リファレンスコード 62axxx など) が報告されているか確認し、報告されている場合は、各 SIM の対処方法に従ってください。
多重度互換モード (ローカルレプリカオプション#5) が有効になっている。	構成を見直して、多重度互換モード (ローカルレプリカオプション#5) を無効にしてください。

ボリューム移動は最大 256 ペアずつ動作するため、同時に 256 ペア以上のボリューム移動を実施した場合は、256 ペア以降のペアのボリューム移動進捗率は 0%のままとなります。ボリューム移動が完了すると、動作していなかったペアのボリューム移動が開始されます。

注※1

ShadowImage の Host I/O Performance オプションを無効にする手順については『ShadowImage ユーザガイド』を参照してください。

注※2

ShadowImage for Mainframe の Host I/O Performance オプションを無効にする手順については『ShadowImage for Mainframe ユーザガイド』を参照してください。

注※3

MP 稼働率を確認する手段については、『VSP One Block Administrator ユーザガイド』を参照してください。

関連概念

- [4.1 ストレージシステム保守作業中の注意事項](#)

5.2 ストレージシステムの負荷が高い状態でのボリューム移動に関するトラブルへの対処と他のプログラムプロダクトへの影響

ストレージシステムの負荷が上がると、ホストサーバの I/O 性能（レスポンス）が低下するおそれがあります。ストレージシステムの負荷が高い状態で Volume Migration によるボリュームの移動を実行すると、ホストサーバの I/O 性能（レスポンス）が低下するおそれがさらに高くなります。

ホストからの I/O によってストレージシステムへの負荷が高まっているときには、Volume Migration によるボリューム移動を実行しないでください。仮にボリューム移動を実行したとしても、途中で失敗するおそれがあります。ボリューム移動に失敗した場合は、ストレージシステムへの負荷を一時的に低下させてから、再度ボリューム移動を実行してください。

関連概念

- [3.1 ボリュームの移動手順](#)
- [5.2.1 コピーしきい値オプション（システムオプションモード 467）を使ったストレージシステムへの負荷を軽減する方法](#)
- [5.2.3 進捗率 100%になってもボリューム移動が完了しない場合の対処](#)
- [5.2.4 併用する他のプログラムプロダクトのコピー時間に与える影響と目安時間](#)

5.2.1 コピーしきい値オプション（システムオプションモード 467）を使ったストレージシステムへの負荷を軽減する方法

コピーしきい値オプション（システムオプションモード 467）は、ストレージシステムの負荷が高いときに Volume Migration の実行時のコピー処理を一時的に停止するオプションです。コピーしきい値オプション（システムオプションモード 467）を設定すると、ストレージシステムの負荷が高いときに Volume Migration の実行時のコピー処理を一時的に停止させて、ホストサーバの I/O 性能（レスポンス）の低下を最小限に抑えることができます。

ただし、Volume Migration によるボリュームの移動は、移動中のボリュームへのホストからの更新が多いほど、失敗する確率が高くなります。コピーしきい値オプション（システムオプションモード 467）を ON にすると、ストレージシステムの負荷が高いときに Volume Migration の実行時のコピー処理を一時的に停止するため、Volume Migration によるボリュームの移動が失敗する確率が高くなります。このため、このオプションの初期値は ON ですが、移動中のボリュームへのホストからの更新が多いときは、このオプションを ON にしないことをお勧めします。コピーしきい値オプション（システムオプションモード 467）の設定については、お問い合わせください。

なお、コピーしきい値オプション（システムオプションモード 467）によって停止されたコピー処理は、ストレージシステムの負荷が下がれば再開されます。また、コピーしきい値オプション（システムオプションモード 467）を ON にすると、ストレージシステム過負荷時には、Volume Migration のほかに次のプログラムプロダクトのコピー処理も停止されます。

- ShadowImage
- ShadowImage for Mainframe
- Compatible FlashCopy® V2

関連概念

- [5.5 お問い合わせ先](#)

5.2.2 容量削減機能用のコピーしきい値オプションを使ったストレージシステムへの負荷を軽減する方法

データ削減共有ボリュームで、ホストサーバの I/O 性能（レスポンス）の低下を防ぐには、容量削減機能用のコピーしきい値オプションを使用します。

容量削減機能用のコピーしきい値オプションには、次の 2 つのシステムオプションモードがあります。

- システムオプションモード 1254 :
ストレージシステム内のすべての CLPR に一律機能を適用したいときに使用します。
- システムオプションモード 1260 :
CLPR 単位で機能の適用を変えたいときに使用します。

(1) 容量削減機能用のコピーしきい値オプション（ストレージシステム単位）

容量削減機能用のコピーしきい値オプション（ストレージシステム単位）（システムオプションモード 1254）は、ストレージシステム内のすべての CLPR に一律機能を適用したいときに使います。コピー先の CLPR ごとに機能の適用を変えたいときは、システムオプションモード 1260 を使ってください。

このオプションを使うと、コピー先のボリュームの CLPR の MP ユニットの Write ペンディング率が 35%以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑制するかどうかを選択できます。

- ON : コピー先のボリュームの CLPR の MP ユニットの Write ペンディング率が 35%以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑制し、コピー先のストレージシステムの Write ペンディング率の増加を抑制します。
- OFF : コピーしきい値オプション（システムオプションモード 467）の設定に従います。

注意事項

コピーしきい値オプションの適用フローを含む詳細については、『オープンシステム構築ガイド』のコピーしきい値オプションに関する項目を参照してください。

(2) 容量削減機能用のコピーしきい値オプション（CLPR 単位）

容量削減機能用のコピーしきい値オプション（CLPR 単位）（システムオプションモード 1260）は、コピー先の CLPR ごとに機能の適用を変えたいときに使います。ストレージシステム内のすべての CLPR に一律機能を適用したいときは、システムオプションモード 1254 を使ってください。

このオプションを使うと、コピー先のボリュームの CLPR の MP ユニットの Write ペンディング率が 35%以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑制するかどうかを選択できます。

- ON : コピー先のボリュームの CLPR の MP ユニットの Write ペンディング率が 35%以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑制し、コピー先のストレージシステムの Write ペンディング率の増加を抑制します。
- OFF : コピーしきい値オプション（システムオプションモード 467）の設定に従います。

注意事項

コピーしきい値オプションの適用フローを含む詳細については、『オープンシステム構築ガイド』の
コピーしきい値オプションに関する項目を参照してください。

5.2.3 進捗率 100%になってもボリューム移動が完了しない場合の対処

ホストからの更新 I/O の負荷が高いボリュームと低いボリュームと一緒に移動すると、進捗率
100%になってもボリュームの移動が完了しない場合があります。この場合は、次に示す対策のどち
らかを実施してください。

- ホストからの更新 I/O の負荷を低くして移動を終了させる。
- ホストからの更新 I/O の負荷が高いボリュームの移動をいったん中断して他のボリュームの移
動をしたあとで、移動を中止したボリュームの移動を再開させる。

保守員が Modify モードで設定変更中のときは、システムロック状態となります。システムロック
中に Volume Migration のボリューム移動が競合すると、ボリュームが移動中のままになることが
あります。この場合には、システムロックが解除されるまでしばらくお待ちください。

ローカルレプリカオプションの「Nondisruptive Migration Data Consistency」(#16) オプション
が有効な場合、データの移行が自動で完了しません。Volume Migration ペアの一致率が 100%また
は 99%になった後、「Nondisruptive Migration Data Consistency」(#16) オプションを無効にす
ることでペア状態が COPY から PSUS に変わり、データ移行が完了します。

RAID Manager を使ってローカルレプリカオプションを変更する方法については、『RAID
Manager ユーザガイド』または『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

関連概念

- [4.1 ストレージシステム保守作業中の注意事項](#)

5.2.4 併用する他のプログラムプロダクトのコピー時間に与える影響と目安 時間

ホストからの更新 I/O の負荷が高い場合、差分のコピーが繰り返されるためボリュームの移動が終
了するまでに時間が掛かります。この差分のコピーが繰り返される間は、他のプログラムプロダク
トのコピー時間が延びることがあります。他のプログラムプロダクトのコピー時間に影響を与える
時間の目安については、次の表を参照してください。他のプログラムプロダクトのコピー時間は他
のプログラムプロダクトのペア数に依存します。

なお、他のプログラムプロダクトとは、次のプログラムプロダクトを指します。

- Volume Migration
- ShadowImage

移動するボリュームの容量 (MB)	コピー速度が低下する時間 (分)
0~1000	4
1001~5000	18
5001~10000	37
10001~50000	186
50001~100000	372
100001~500000	1,860

移動するボリュームの容量 (MB)	コピー速度が低下する時間 (分)
500001~1000000	3,720
1000001~2150400	9,667

なお上記の目安は、移動対象のボリュームに更新 I/O が、50IOPS/ボリュームの条件で算出した時間です。

5.2.5 多重度互換モードオプションを使ったストレージシステムへの負荷を軽減する方法

多重度互換モードオプション（ローカルレプリカオプション#5）無効時に、ShadowImage、ShadowImage for Mainframe、および Volume Migration のコピー処理によって MP 稼働率やキャッシュライトペンディング率が上昇した場合、多重度互換モードオプションを有効にすることで、ストレージシステムへの負荷を抑えることができます。多重度互換モードオプションを有効にすると、ストレージシステム当たりの、ShadowImage、ShadowImage for Mainframe、および Volume Migration のコピー処理の最大多重度（同時にコピーを実行できる最大ジョブ数）は、126 に制限されます。

多重度互換モードオプションの設定は、次のとおりです。

- 有効（デフォルト）：ストレージシステム当たりのコピー処理の最大多重度を、126 に設定します。
- 無効：ストレージシステム当たりのコピー処理の最大多重度を、253 に設定します。

5.3 ボリュームの移動で障害が発生した場合の対処

ボリュームの移動で障害が発生すると、次の SIM が出力されます。

リファレンスコード (SIM)	障害内容
47fxxx*	階層制御 VOL 移動異常終了
7ff106	Volume Migration Pair

注※

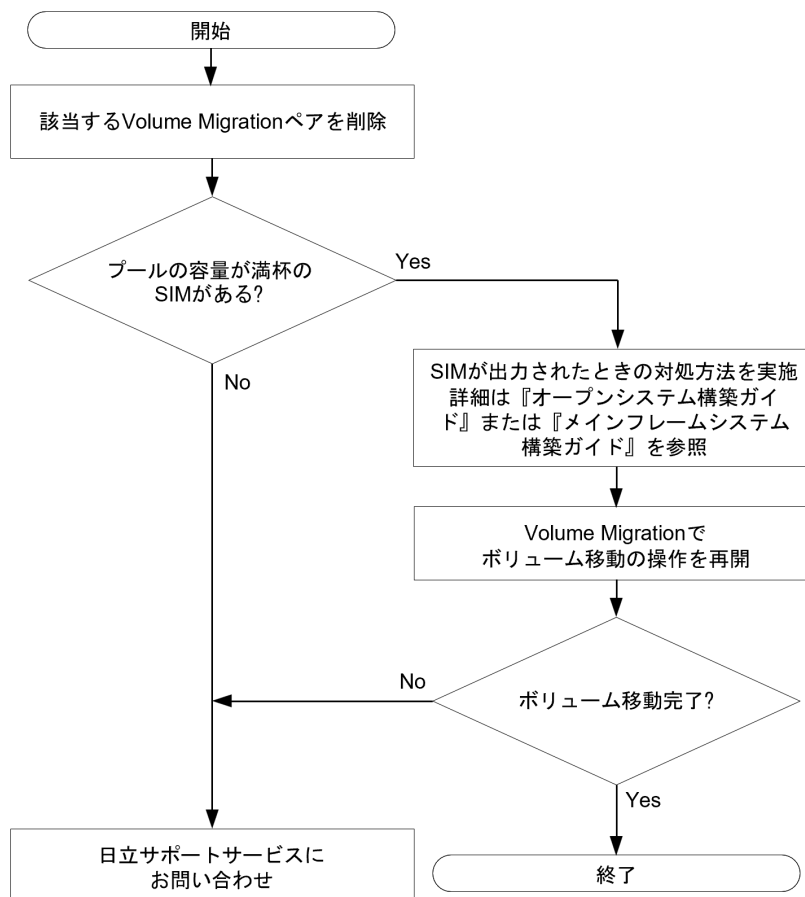
xxx：ターゲットボリュームの下位 12 ビット



メモ

ストレージシステムの負荷が高いと、ボリュームの移動が失敗する場合があります。ただし、障害ではないため、SIM は出力されません。対処方法は「[5.2 ストレージシステムの負荷が高い状態でのボリューム移動に関するトラブルへの対処と他のプログラムプロダクトへの影響](#)」を参照してください。

次のワークフローに従って対処してください。



5.4 RAID Manager 使用時のトラブルシューティング

RAID Manager を使用してボリュームの移動または移動のキャンセルの操作をした場合、RAID Manager の操作ログまたは RAID Manager の画面に出力されるログを参照してエラーの要因を特定できることがあります。

RAID Manager の操作ログ

デフォルトのログ格納先ディレクトリ : /HORCM/log*/curlog/horcmllog_HOST/horcml.log

(凡例)

* : インスタンス番号

HOST : ホスト名

RAID Manager の画面に出力されるログの例

```

It was rejected due to SKEY=0x05, ASC=0x20,SSB=0xB9E1,0xB901 on Serial#(64015)
                                     ↓      ↓
                                     SSB1  SSB2
  
```

RAID Manager 操作時のエラーコード

SSB1 が 2E31/B9A0/B9A2/B9AE/B9AF のときのエラーコードに対する要因と対処法を次に示します。

エラーコード (SSB2)	要因	対処
0C96	移動元ボリュームに指定したデータ削減共有ボリュームが使用できない状態です。	このボリュームは移動できません。データ削減共有ボリュームを削除して作り直してください。
0C97	移動先ボリュームに指定したデータ削減共有ボリュームが使用できない状態です。	このボリュームは移動できません。データ削減共有ボリュームを削除して作り直してください。
0CC7	ペア作成時に指定されたボリュームの Thin Image Advanced の Family 内に、ShadowImage または Volume Migration で使用中のボリュームが存在します。	指定したボリュームと同じ Thin Image Advanced の Family 内に属する、かつ、ShadowImage または Volume Migration のペアとして使用されている、ボリュームに対して ShadowImage または Volume Migration ペア解除を実施してから、ボリュームを移動してください。
0CC9	移行元ボリュームは vClone Parent 属性のボリュームです。	移行元ボリュームの vClone Parent 属性を無効化してから、ボリュームを移動してください。
0CCA	移行先ボリュームは vClone Parent 属性または vClone 属性のボリュームです。	移行先ボリュームの vClone Parent 属性または vClone 属性を無効化してから、ボリュームを移動してください。
2008	移動元ボリュームと移動先ボリュームの T10 PI 属性の設定が一致していません。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
2027	移動元ボリュームと移動先ボリュームのキャッシュモードが一致していません。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
2039	移動元ボリュームは Quorum ディスクです。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
202B	Volume Migration の移行元ボリュームで、複数の GAD ペアが作成されています。	指定されたボリュームで、作成されている GAD ペアを 1 つ以上削除してから、再操作してください。
203A	移動先ボリュームは Quorum ディスクです。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
203E	移動元ボリュームの仮想ストレージマシンの装置製番および機種が変更中、または仮想 LDEV ID が変更中です。	構成変更が完了したあと、再度実行してください。
203F	移動先ボリュームの仮想ストレージマシンの装置製番および機種が変更中、または仮想 LDEV ID が変更中です。	構成変更が完了したあと、再度実行してください。
204A	現在の、DKCMAIN のバージョンでは移動元ボリュームの容量がサポートされていません。	容量がサポート範囲内のボリュームを指定してください。
204B	現在の、DKCMAIN のバージョンでは移動先ボリュームの容量がサポートされていません。	容量がサポート範囲内のボリュームを指定してください。

エラーコード (SSB2)	要因	対処
204C	<p>移動元ボリュームは次のうちのどちらかです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. global-active device ペアのボリュームです。 2. global-active device の予約属性のボリュームです。 	<p>それぞれの要因に対応して、次に示す対処をしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. global-active device ペアを中断状態にしたあと、ボリュームを移動してください。 2. このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
204D	<p>移動先ボリュームは次のうちのどちらかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • global-active device ペアのボリュームです。 • global-active device の予約属性のボリュームです。 	<p>このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。</p>
2050	<p>移動先ボリュームは、Volume Retention Manager によって使用されています。</p>	<p>そのボリュームの Volume Retention Manager による使用を解除したあと、ボリュームを移動してください。</p>
2051	<p>移動先ボリュームは、Data Retention Utility によって使用されています。</p>	<p>そのボリュームの Data Retention Utility による使用を解除したあと、ボリュームを移動してください。</p>
2055	<p>移動先ボリュームは、Universal Replicator によって使用されています。</p>	<p>そのボリュームの Universal Replicator による使用を解除したあと、ボリュームを移動してください。</p>
2056	<p>移動元ボリュームは、Universal Replicator によって使用されています。</p>	<p>そのボリュームの Universal Replicator による使用を解除したあと、ボリュームを移動してください。</p>
2058	<p>移動先ボリュームと移動元ボリュームが、同一のパリティグループに属しています。</p>	<p>このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。</p>
205C	<p>移動先ボリュームは、Universal Replicator によって使用されています。</p>	<p>そのボリュームの Universal Replicator による使用を解除したあと、ボリュームを移動してください。</p>
206B	<p>移動元ボリュームは重複排除システムデータボリューム(フィンガープリント)です。</p>	<p>このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。</p>
206C	<p>移動先ボリュームは重複排除システムデータボリューム(フィンガープリント)です。</p>	<p>このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。</p>
206E	<p>移動元ボリュームは、global-active device ペアのボリュームとして使用されていて、かつ Quick Restore 中の ShadowImage ペアのプライマリボリュームです。</p>	<p>Quick Restore が完了したあと、ボリュームを移動してください。</p>
2070	<p>移動元ボリュームは、global-active device ペアのボリュームとして使用されていて、かつ global-active device ペアが形成コピー中または再同期中です。</p>	<p>global-active device ペアを中断状態にしたあと、ボリュームを移動してください。</p>

エラーコード (SSB2)	要因	対処
2074	移動元ボリュームは、global-active device ペアのボリュームとして使用されていて、かつ、global-active device のセカンダリボリュームのボリューム属性 (raidcom get ldev コマンドで表示される VOL_ATTR) が、移動先に指定したボリュームのボリューム属性と異なります。	global-active device のセカンダリボリュームと同じボリューム属性 (raidcom get ldev コマンドで表示される VOL_ATTR) のボリュームを移動先に指定してください。
2075	移動元ボリュームは、Thin Image Advanced ペアのセカンダリボリュームです。	Thin Image Advanced ペアを解除したあと、ボリューム移動を行ってください。
2076	移動先ボリュームは、次のどれかです。 1. Thin Image Advanced ペアのプライマリボリュームです。 2. Thin Image Advanced ペアのセカンダリボリュームです。	それぞれの要因に対応して、次に示す対処をしてください。 1. Thin Image Advanced ペアを解除したあと、ボリューム移動を行ってください。 2. Thin Image Advanced ペアを解除したあと、ボリューム移動を行ってください。
207F	Volume Migration によるボリューム移動が完了し、現在終了処理中です。	しばらく待つてから、Volume Migration の処理が完了したことを確認してください。
2089	移動元ボリュームは、クイックフォーマット中です。	クイックフォーマット終了後、ボリュームを移動してください。
208A	移動先ボリュームは、クイックフォーマット中です。	クイックフォーマット終了後、ボリュームを移動してください。
2090	移動先ボリュームは、プールに関連づけられていない DP-VOL です。	DP-VOL をプールに関連づけたあと、ボリュームを移動してください。
2091	移動元ボリュームは、プールに関連づけられていない DP-VOL です。	DP-VOL をプールに関連づけたあと、ボリュームを移動してください。
2093	移動元ボリュームは、Thin Image Advanced ペアのプライマリボリュームです。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
2095	移動先ボリュームと移動元ボリュームが、同一のプールに属している DP-VOL です。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
2096	移動元ボリュームは TrueCopy または Universal Replicator によって使用されています。移動先ボリュームは DP-VOL です。	移動元ボリュームのペアを解除したあと、ボリュームを移動してください。
20A5	移動元ボリュームは、容量を拡張している途中の DP-VOL です。	移動元ボリュームの容量の拡張が終了したことを確認してください。拡張したボリュームと同じ容量のボリュームを移動先に指定して、ボリュームを移動してください。
20A6	移動先ボリュームは、容量を拡張している途中の DP-VOL です。	移動先ボリュームの容量の拡張が終了したことを確認してください。拡張したボリュームと同じ容量のボリュームを移動先に指定して、ボリュームを移動してください。

エラーコード (SSB2)	要因	対処
20AC	ブールボリュームとしてだけ使用できるボリュームを移動元ボリュームとして指定したため、コマンドは異常終了しました。 データダイレクトマップ属性が有効に設定された外部ボリュームを移動元ボリュームに指定した場合に発生します。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
20AF	ブールボリュームとしてだけ使用できるボリュームを移動先ボリュームとして指定したため、コマンドは異常終了しました。 データダイレクトマップ属性が有効に設定された外部ボリュームを移動先ボリュームに指定した場合に発生します。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
20BA	移動元ボリュームに、LU パスまたは NVMe の NVM サブシステムポートが追加された NVM サブシステムの Namespace が設定されていません。	LU パスまたは NVMe の NVM サブシステムポートが追加された NVM サブシステムの Namespace を設定したあと、ボリュームを移動してください。
20BB	移動先ボリュームに、LU パスまたは NVMe の NVM サブシステムポートが追加された NVM サブシステムの Namespace が設定されていません。	LU パスまたは NVMe の NVM サブシステムポートが追加された NVM サブシステムの Namespace を設定したあと、ボリュームを移動してください。
20C0	移動元ボリュームのエミュレーションタイプが 3390-V です。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
20C1	移動先ボリュームのエミュレーションタイプが 3390-V です。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
20C5	電源をオフにしている途中です。	電源をオンにしてから、再操作してください。
20C6	移動元ボリュームのエミュレーションタイプがサポートされていません。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
20C7	移動先ボリュームのエミュレーションタイプがサポートされていません。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
20CC	移動元ボリュームのエミュレーションタイプが 3390-A または 6588-A で、次のどちらかの要因に該当しています。 <ul style="list-style-type: none"> • Mainframe Fibre CHB が実装されていない。 • Mainframe Fibre CHB がすべて閉塞している。 	Mainframe Fibre CHB が実装されていない場合は、Mainframe Fibre CHB を実装してください。 Mainframe Fibre CHB がすべて閉塞している場合は、Mainframe Fibre CHB を回復してください。
20CD	移動先ボリュームのエミュレーションタイプが 3390-A または 6588-A で、次のどちらかの要因に該当しています。 <ul style="list-style-type: none"> • Mainframe Fibre CHB が実装されていない。 	Mainframe Fibre CHB が実装されていない場合は、Mainframe Fibre CHB を実装してください。 Mainframe Fibre CHB がすべて閉塞している場合は、Mainframe Fibre CHB を回復してください。

エラーコード (SSB2)	要因	対処
	<ul style="list-style-type: none"> Mainframe Fibre CHB がすべて閉塞している。 	
20D3	移動元ボリュームは、DP プールが初期化中の DP-VOL です。	DP プールの初期化処理が完了してから、再操作してください。
20D4	移動先ボリュームは、DP プールが初期化中の DP-VOL です。	DP プールの初期化処理が完了してから、再操作してください。
20D9	移動元ボリュームは TSE ボリュームです。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
20DA	移動先ボリュームは TSE ボリュームです。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
20E1	移動元ボリュームのオンラインでのデータ移動の設定が正しくありません。	オンラインでのデータ移動の設定を見直してから再操作してください。
20E2	移動先ボリュームは、オンラインでのデータ移動用にマッピングされている外部ボリュームです。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
20F2	プライマリボリュームとセカンダリボリュームの装置製番に仮想ストレージマシンの装置製番を設定した場合、設定された仮想ストレージマシンの各装置製番は一致しますが、各装置製番に対応する物理的なストレージシステムの装置製番が一致していません。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
20F9	移動元ボリュームとして指定されたボリュームは、オンラインデータ移行中のボリュームをプライマリボリュームとする ShadowImage ペアのセカンダリボリュームのため、ペアを操作できませんでした。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
20FA	移動先ボリュームは、オンラインでのデータ移動用にマッピングされている外部ボリュームです。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
20FB	Volume Migration がストレージシステムにインストールされていません。	Volume Migration をインストールしたあと、ボリュームを移動してください。
22FA	移動元ボリュームは Compatible FlashCopy® V2 のソースボリュームまたはターゲットボリュームに設定されています。	Compatible FlashCopy® V2 のペアを解除したあと、ボリュームを移動してください。
22FB	移動先ボリュームは Compatible FlashCopy® V2 のソースボリュームまたはターゲットボリュームに設定されています。	Compatible FlashCopy® V2 のペアを解除したあと、ボリュームを移動してください。
2301	Volume Migration がストレージシステムにインストールされていません。	Volume Migration をインストールしたあと、ボリュームを移動してください。

エラーコード (SSB2)	要因	対処
2306	移動先ボリュームと移動元ボリュームの LBA サイズが一致していません。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
2309	ストレージシステムで設定できるペアの最大値を超えるため、ボリュームは移動できません。	ストレージシステムに設定したペア数を減らしたあと、ボリュームを移動してください。
2312	移動先ボリュームはホストからオンラインになっています。	ホストから移動先ボリュームをオフラインにしたあと、ボリュームを移動してください。
2316	移動元ボリュームは、Soft Fence が設定されています。	Soft Fence を解除したあと、ボリュームを移動してください。
2317	移動先ボリュームは、Soft Fence が設定されています。	Soft Fence を解除したあと、ボリュームを移動してください。
231C	移動元ボリュームと移動先ボリュームに、CU 番号とプール ID の偶数/奇数が一致しない CU とプールが存在しているため、Volume Migration 操作を拒否しました。	CU 番号とプール ID の偶数/奇数を一致させてください。
231D	移動先ボリュームと移動元ボリュームに、ESE 属性のボリュームと非 ESE 属性のボリュームが混在しているため、Volume Migration 操作を拒否しました。	ESE 属性のボリューム、または非 ESE 属性のボリュームの一方に統一してください。
2322	移動元ボリュームは、ShadowImage のリーフボリュームに設定されています。	ShadowImage のペアを解除したあと、ボリュームを移動してください。
2328	移動先ボリュームは、ShadowImage のセカンダリボリュームに設定されています。	ShadowImage のペアを解除したあと、ボリュームを移動してください。
232B	移動元ボリュームまたは移動先ボリュームのどちらかに、次の両方の条件を満たしているボリュームが指定されています。 <ul style="list-style-type: none"> VSP One Block Administrator で使用されています。 VSP One Block Administrator で使用されているボリュームの入れ替え対象となるボリュームが、VSP One Block Administrator がサポートしていないボリュームです。 	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> VSP One Block Administrator で使用されているボリュームを移動元ボリュームまたは移動先ボリュームに指定したい場合は、入れ替え対象のボリュームとして VSP One Block Administrator がサポートしているボリュームを指定してください。 VSP One Block Administrator がサポートしていないボリュームを移動元ボリュームまたは移動先ボリュームに指定したい場合は、入れ替え対象のボリュームとして VSP One Block Administrator が使用していないボリュームを指定してください。
232F	移動元ボリュームは、Volume Migration の移動先ボリュームに設定されています。	そのボリュームの Volume Migration による使用を解除したあと、ボリュームを移動してください。
2331	移動先ボリュームと移動元ボリュームのスロット数が一致していません。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
2332	移動元として指定したボリュームには、これ以上ペアの設定を追加できません。	指定したボリュームのペア設定の数を減らしたあと、ボリュームを移動してください。

エラーコード (SSB2)	要因	対処
2333	ボリューム移動のキャンセル操作で、移動元として指定されたボリュームは、移動元ボリュームではありません。	移動中ではないペアに対して、移動のキャンセル操作をしています。構成定義ファイルを見直してください。
2336	移動先ボリュームと移動元ボリュームのエミュレーションタイプが一致していません。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
2337	移動元ボリュームは、ShadowImage のリーフボリュームに設定されています。	ShadowImage のペアを解除したあと、ボリュームを移動してください。
233B	移動先ボリュームは、ShadowImage のプライマリボリュームに設定されています。	ShadowImage のペアを解除したあと、ボリュームを移動してください。
233C	移動先ボリュームは、ShadowImage のセカンダリボリュームに設定されています。	ShadowImage のペアを解除したあと、ボリュームを移動してください。
2342	移動先ボリュームは、Volume Migration の移動先ボリュームに設定されています。	そのボリュームの Volume Migration による使用を解除したあと、ボリュームを移動してください。
2343	移動先ボリュームは、ShadowImage のプライマリボリュームに設定されています。	ShadowImage のペアを解除したあと、ボリュームを移動してください。
2344	ボリューム移動のキャンセル操作で、移動先として指定されたボリュームは、移動先ボリュームではありません。	移動中ではないペアに対して、移動のキャンセル操作をしています。構成定義ファイルを見直してください。
2346	移動先ボリュームは、TrueCopy のプライマリボリュームに設定されています。	TrueCopy のペアを解除したあと、ボリュームを移動してください。
2347	移動先ボリュームは、TrueCopy のセカンダリボリュームに設定されています。	TrueCopy のペアを解除したあと、ボリュームを移動してください。
234B	移動先ボリュームは Volume Migration の移動元ボリュームに設定されています。	そのボリュームの Volume Migration による使用を解除したあと、ボリュームを移動してください。
234E	移動元ボリュームは重複排除用システムデータボリューム(データストア)です。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
234F	移動先ボリュームは重複排除用システムデータボリューム(データストア)です。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
2350	移動元ボリュームと移動先ボリュームはペアではありません。	このペア削除、または移動のキャンセルは実行できません。構成定義ファイルを見直してください。
2351	同じボリュームに移動元ボリュームと移動先ボリュームが設定されています。	次の操作は実行できません。 <ul style="list-style-type: none"> • ボリュームの移動 • ペア削除 • 移動のキャンセル

エラーコード (SSB2)	要因	対処
		構成定義ファイルを見直してください。
2355	移動先ボリュームと移動元ボリュームの VLL の設定が異なります。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
2364	移行元ボリュームは、ユーザデータを格納するボリュームとして使用できません。	『オープンシステム構築ガイド』のトラブルシューティングを参照してください。
2365	移動元ボリュームは、コンカレントコピー (CC) のプライマリボリュームに設定されています。	コンカレントコピーのペアを解除したあと、ボリュームを移動してください。
2366	移動先ボリュームは、コンカレントコピー (CC) のプライマリボリュームに設定されています。	コンカレントコピーのペアを解除したあと、ボリュームを移動してください。
2367	移行先ボリュームは、ユーザデータを格納するボリュームとして使用できません。	『オープンシステム構築ガイド』のトラブルシューティングを参照してください。
2368	移動元として指定されたボリュームは、TrueCopy ペアのプライマリボリュームとして使用されています。ペアは COPY 状態です。	TrueCopy ペアを PAIR または PSUS 状態にするか、TrueCopy ペアを削除したあと、ボリュームを移動してください。
2369	移動元として指定されたボリュームは、TrueCopy ペアのセカンダリボリュームとして使用されています。ペアは COPY 状態です。	TrueCopy ペアを PAIR または PSUS 状態にするか、TrueCopy ペアを削除したあと、ボリュームを移動してください。
236A	移動元ボリュームは次のどれかです。 <ul style="list-style-type: none"> ShadowImage のプライマリボリュームで、ペア状態が COPY(SP)/COPY または PSUS(SP)/PSUS ShadowImage for Mainframe のプライマリボリュームで、ペア状態が SP-Pend/TRANS または V-Split/SUSPVS 	ShadowImage または ShadowImage for Mainframe ペアが PSUS 状態になったあと、ボリュームを移動してください。
236B	移動元ボリュームは次のどれかです。 <ul style="list-style-type: none"> ShadowImage のセカンダリボリュームで、ペア状態が COPY(SP)/COPY または PSUS(SP)/PSUS ShadowImage for Mainframe のセカンダリボリュームで、ペア状態が SP-Pend/TRANS または V-Split/SUSPVS 	ShadowImage または ShadowImage for Mainframe ペアが PSUS 状態になったあと、ボリュームを移動してください。
2370	移動元ボリュームは実装されていません。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
2371	移動元ボリュームは閉塞しています。または、移動元ボリュームが属するプールに、正常な状態でないプールボリュームが含まれています。	<ul style="list-style-type: none"> 移動元ボリュームが仮想ボリュームの場合 <ul style="list-style-type: none"> 移動元ボリュームが所属するプールのプールボリュームが閉塞している場合は、保守員に連絡してください。

エラーコード (SSB2)	要因	対処
		<ul style="list-style-type: none"> プールボリュームが閉塞しておらず、仮想ボリュームが閉塞している場合は、ボリュームの閉塞を回復したあとに、ボリュームを移動してください。 プールボリュームが閉塞しておらず、仮想ボリュームも閉塞していない場合は、保守員に連絡してください。 移動元ボリュームが仮想ボリューム以外の場合、ボリュームの閉塞を回復したあとに、ボリュームを移動してください。
2372	移動元ボリュームはフォーマット中またはシュレディング中です。	フォーマットまたはシュレディングの終了後にボリュームを移動してください。
2373	移動元ボリュームはコマンドデバイスです。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
237C	移動元ボリュームは外部ボリュームで、TrueCopyのプライマリボリュームに設定されています。	TrueCopyのペアを解除したあと、ボリュームを移動してください。
2380	移動先ボリュームは実装されていません。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
2381	移動先ボリュームは閉塞しています。または、移動先ボリュームが属するプールに、正常な状態でないプールボリュームが含まれています。	<ul style="list-style-type: none"> 移動先ボリュームが仮想ボリュームの場合 <ul style="list-style-type: none"> 移動先ボリュームが所属するプールのプールボリュームが閉塞している場合は、保守員に連絡してください。 プールボリュームが閉塞しておらず、仮想ボリュームが閉塞している場合は、ボリュームの閉塞を回復したあとに、ボリュームを移動してください。 プールボリュームが閉塞しておらず、仮想ボリュームも閉塞していない場合は、保守員に連絡してください。 移動先ボリュームが仮想ボリューム以外の場合、ボリュームの閉塞を回復したあとに、ボリュームを移動してください。
2382	移動先ボリュームはフォーマット中またはシュレディング中です。	フォーマットまたはシュレディングの終了後にボリュームを移動してください。
2383	移動先ボリュームはコマンドデバイスです。	このボリュームは移動できません。構成定義ファイルを見直してください。
2392	移動元ボリュームは、容量削減状態がDeleting Volume (nn %)、またはFailedのDP-VOLです。	このボリュームは移動できません。容量削減状態を、ボリュームを移動できる状態に変更するか、構成定義ファイルを見直してください。
2393	移動先ボリュームは、容量削減状態がDeleting Volume (nn %)、またはFailedのDP-VOLです。	このボリュームは移動できません。容量削減状態を、ボリュームを移動できる状態に変更するか、構成定義ファイルを見直してください。
23FF	差分テーブルの枯渇、または内部エラーが発生したため、ボリュームは移動できません。	差分テーブルが枯渇している可能性があります。raidcom get system コマンドで差分テーブル数を確認してください。差分テーブルが枯渇している場合は、Volume Migration、ShadowImage、または

エラーコード (SSB2)	要因	対処
		ShadowImage for Mainframe のペアを減らしたあと、ボリュームを移動してください。 差分テーブルの枯渇が原因でない場合は、内部エラーが発生している可能性があります。「 5.5 お問い合わせ先 」へお問い合わせください。
B911	指定したボリュームが実装されていないため、ペア操作コマンドを拒否しました。	指定したボリュームが実装されているか確認してください。
B912	ペア操作で指定した副ボリュームがないためコマンド拒否しました。	指定した副ボリュームが実装されているか確認してください。
B913	ミラー ID が不正なためペア操作コマンドを拒否しました。	ミラー ID を 0～2 で指定してください。

5.5 お問い合わせ先

- 保守契約をされているお客様は、以下の連絡先にお問い合わせください。
日立サポートサービス：<http://www.hitachi-support.com/>
- 保守契約をされていないお客様は、担当営業窓口にお問い合わせください。

このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

- [A.1 操作対象リソースについて](#)
- [A.2 このマニュアルでの表記](#)
- [A.3 このマニュアルで使用している略語](#)
- [A.4 KB（キロバイト）などの単位表記について](#)

A.1 操作対象リソースについて

このマニュアルで説明している機能を使用するときには、各操作対象のリソースが特定の条件を満たしている必要があります。

各操作対象のリソースの条件については『オープンシステム構築ガイド』または『メインフレームシステム構築ガイド』を参照してください。

A.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルで使用している表記を次の表に示します。

表記	製品名
DP	Dynamic Provisioning
TC	TrueCopy
UR	Universal Replicator
VSP One B80	Hitachi Virtual Storage Platform One Block 80

A.3 このマニュアルで使用している略語

このマニュアルで使用している略語を次の表に示します。

略語	フルスペル
CLPR	Cache Logical Partition
CU	Control Unit
I/O	Input/Output
IOPS	Input Output Per Second
ID	IDentifier
LBA	Logical Block Address
LDEV	Logical DEvice
LU	Logical Unit
LUN	Logical Unit Number
SSD	Solid-State Drive

A.4 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）は1,024バイト、1MB（メガバイト）は1,024KB、1GB（ギガバイト）は1,024MB、1TB（テラバイト）は1,024GB、1PB（ペタバイト）は1,024TBです。

1block（ブロック）は512バイトです。

1Cyl（シリンダ）をKBに換算した値は、ボリュームのエミュレーションタイプによって異なります。オープンシステムの場合、1Cylは960KBです。メインフレームシステムの場合、1Cylは870KBです。3380-xx、6586-xxについて、CLIのLDEV容量の表示は、ユーザがデータを格納で

きるユーザ領域の容量を表示するため、1Cyl を 720KB としています。xx は任意の数字または文字を示します。



用語解説

(英字)

AMC

(Array Management Controller)

HSNBX に搭載される ESM アプリケーションが動作するハードウェア。

ALUA

(Asymmetric Logical Unit Access)

SCSI の非対称論理ユニットアクセス機能です。

ストレージ同士、またはサーバとストレージシステムを複数の冗長パスで接続している構成の場合に、どのパスを優先して使用するかをストレージシステムに定義して、I/O を発行できます。優先して使用するパスに障害が発生した場合は、他のパスに切り替わります。

bps

(bits per second)

データ転送速度の標準規格です。

CBX

(Controller Box)

CBX は DKC、コントローラシャーシと同義語です。詳しくは、「コントローラシャーシ」を参照してください。CBX2 台を指す場合は CBX ペアと記載する場合があります。

CC

(Concurrent Copy)

IBM 社の Concurrent Copy 機能のことです。

CHAP

(Challenge Handshake Authentication Protocol)

認証方式のひとつ。ネットワーク上でやり取りされる認証情報はハッシュ関数により暗号化されるため、安全性が高いです。

CHB

(Channel Board)

詳しくは「チャンネルボード」を参照してください。

Child

Thin Image Advanced の用語で、Parent のメタデータを共有する先のペアまたはボリュームを指します。

Family 内に vClone 属性のボリュームが存在しない場合、ルートボリュームと同じスナップショットツリーに属するペアまたはボリュームが該当します。

Family 内に vClone 属性のボリュームが存在する場合、vClone Parent 属性のボリュームと同じスナップショットツリーに属するペアまたはボリューム、同一 Family 内の vClone 属性のボリューム、同一 Family 内の vClone 属性のボリュームと同じスナップショットツリーに属するペアまたはボリュームが該当します。

CLPR

(Cache Logical Partition)

キャッシュメモリを論理的に分割すると作成されるパーティション (区画) です。

CM

(Cache Memory (キャッシュメモリ))

詳しくは「キャッシュ」を参照してください。

CNA

(Converged Network Adapter)

HBA と NIC を統合したネットワークアダプタ。

CRC

(Cyclic Redundancy Check)

巡回冗長検査。コンピュータデータに対し、偶発的变化を検出するために設計された誤り訂正符号。

CSV

(Comma-Separated Values)

データベースソフトや表計算ソフトのデータをファイルとして保存するフォーマットの1つで、主にアプリケーション間のファイルのやり取りに使われます。それぞれの値はコンマで区切られています。

CTG

(Consistency Group)

詳しくは「コンシステンシーグループ」を参照してください。

CU

(Control Unit (コントロールユニット))

主に磁気ディスク制御装置を指します。

CV

(Customized Volume)

任意のサイズに設定できる論理ボリュームです。

CYL

(Cylinder (シリンダ))

複数枚の磁気ディスクから構成される磁気ディスク装置で、磁気ディスクの回転軸から等距離にあるトラックが磁気ディスクの枚数分だけ垂直に並び、この集合を指します。

DKB

(Disk Board)

ドライブとキャッシュメモリ間のデータ転送を制御するモジュールです。

DKC

(Disk Controller)

DKC は CBX、コントローラシャーシと同義語です。また、システムを総称する論理的な呼称として DKC が使われる場合があります。詳しくは、「コントローラシャーシ」を参照してください。

DKU

(Disk Unit)

各種ドライブを搭載するためのシャーシ（筐体）です。

DP-VOL

詳しくは「仮想ボリューム」を参照してください。

EAV

(Extended Address Volume)

IBM 社のストレージシステムが提供している、従来の 3390 型ボリュームではサポートできない大容量のボリュームを定義するための機能です。最大で、1,182,006 シリンダ/ボリュームまで定義できます。

ECC

(Error Check and Correct)

ハードウェアで発生したデータの誤りを検出し、訂正することです。

ENC

ドライブボックスに搭載され、コントローラシャーシまたは他のドライブボックスとのインターフェース機能を有します。

ESE-VOL

(Extent Space - Efficient Volume)

IBM 製品と互換性のある仮想ボリュームで、User Directed Space Release 機能によるページ解放が可能なボリュームです。

ESM

(Embedded Storage Manager)

本ストレージシステムにおける管理系ソフトウェアです。

ESMOS

(Embedded Storage Manager Operating System)

ESM を動作させるための OS や OSS を含んだファームウェアです。

ExG

(External Group)

外部ボリュームを任意にグループ分けしたものです。詳しくは「外部ボリュームグループ」を参照してください。

External MF

詳しくは「マイグレーションボリューム」を参照してください。

External ポート

外部ストレージシステムを接続するために使用する、ストレージシステムのポートです。

Failover

故障しているものと機能的に同等のシステムコンポーネントへの自動的置換。
この **Failover** という用語は、ほとんどの場合、同じストレージデバイスおよびホストコンピュータに接続されているインテリジェントコントローラに適用されます。
コントローラのうちの1つが故障している場合、**Failover** が発生し、残っているコントローラがその I/O 負荷を引き継ぎます。

Family

Thin Image Advanced の用語で、メタデータを共有する **Parent** (メタデータ共有元となるボリューム) と **Child** (**Parent** のメタデータ共有するペアまたはボリューム) の群れを指します。

FC

(Fibre Channel)

ストレージシステム間のデータ転送速度を高速にするため、光ケーブルなどで接続できるようにするインターフェースの規格のことです。

FICON

(Fibre Connection)

メインフレームシステム用の光チャネルの一種です。**FICON** では、ファイバチャネルの標準に基づいて **ESCON**[®] の機能が拡張されており、全二重データによる高速データ転送がサポートされています。

FM

(Flash Memory (フラッシュメモリ))

詳しくは「フラッシュメモリ」を参照してください。

GID

(Group ID)

ホストグループを作成するときに付けられる 2 桁の 16 進数の識別番号です。

GUI

(Graphical User Interface)

コンピュータやソフトウェアの表示画面をウィンドウや枠で分け、情報や操作の対象をグラフィック要素を利用して構成するユーザインターフェース。マウスなどのポインティングデバイスで操作することを前提に設計されます。

HBA

(Host Bus Adapter)

詳しくは「ホストバスアダプタ」を参照してください。

Hyper PAV

IBM OS の機能で、PAV の発展機能です。あるベースデバイスに割り当てたエイリアスデバイスが、同一 CU 内のベースデバイスすべてのエイリアスデバイスとして共有化されます。本ストレージシステムで **Compatible Hyper PAV** 機能を使用することにより、IBM OS から本ストレージシステム上のデバイスに対してこの機能を使えるようになります。

I/O モード

global-active device ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームが、それぞれに持つ I/O の動作です。

I/O レート

ドライブへの入出力アクセスが 1 秒間に何回行われたかを示す数値です。単位は IOPS (I/Os per second) です。

In-Band 方式

RAID Manager のコマンド実行方式の 1 つです。コマンドを実行すると、管理ツールの操作端末またはサーバから、ストレージシステムのコマンドデバイスにコマンドが転送されます。

Initiator

属性が RCU Target のポートと接続するポートを持つ属性です。

iSNS

(Internet Storage Naming Service)

iSCSI デバイスで使われる、自動検出、管理および構成ツールです。

iSNS によって、イニシエータおよびターゲット IP アドレスの特定リストで個々のストレージシステムを手動で構成する必要がなくなります。代わりに、iSNS は、環境内のすべての iSCSI デバイスを自動的に検出、管理および構成します。

LACP

(Link Aggregation Control Protocol)

複数回線を 1 つの論理的な回線として扱うための制御プロトコル。

LCU

(Logical Control Unit)

主に磁気ディスク制御装置を指します。

LDEV

(Logical Device (論理デバイス))

RAID 技術では冗長性を高めるため、複数のドライブに分散してデータを保存します。この複数のドライブにまたがったデータ保存領域を論理デバイスまたは LDEV と呼びます。ストレージ内の LDEV は、LDKC 番号、CU 番号、LDEV 番号の組み合わせで区別します。LDEV に任意の名前を付けることもできます。

このマニュアルでは、LDEV (論理デバイス) を論理ボリュームまたはボリュームと呼ぶことがあります。

LDEV 名

LDEV 作成時に、LDEV に付けるニックネームです。あとから LDEV 名の変更もできます。

LDKC

(Logical Disk Controller)

複数の CU を管理するグループです。各 CU は 256 個の LDEV を管理しています。

LUN/LU

(Logical Unit Number)

論理ユニット番号です。オープンシステム用のボリュームに割り当てられたアドレスです。オープンシステム用のボリューム自体を指すこともあります。

LUN セキュリティ

LUN に設定するセキュリティです。LUN セキュリティを有効にすると、あらかじめ決めておいたホストだけがボリュームにアクセスできるようになります。

LUN パス、LU パス

オープンシステム用ホストとオープンシステム用ボリュームの間を結ぶデータ入出力経路です。

LUSE ボリューム

オープンシステム用のボリュームが複数連結して構成されている、1つの大きな拡張ボリュームのことです。ボリュームを拡張することで、ポート当たりのボリューム数が制限されているホストからもアクセスできるようになります。

MCU

(Main Control Unit)

リモートコピーペアのプライマリボリューム (正 VOL) を制御するディスクコントロールユニットです。ユーザによって管理ツールの操作端末から要求されたリモートコピーコマンドを受信・処理し、RCU に送信します。

Mfibre

(Mainframe Fibre)

IBM のメインフレームのファイバチャネルを示す用語です。

MP ユニット

データ入出力を処理するプロセッサを含んだユニットです。データ入出力に関連するリソース (LDEV、外部ボリューム、ジャーナル) ごとに特定の MP ユニットの割り当てると、性能をチューニングできます。特定の MP ユニットの割り当ての方法と、ストレージシステムが自動的に選択した MP ユニットの割り当ての方法があります。MP ユニットに対して自動割り当ての設定を無効にすると、その MP ユニットがストレージシステムによって自動的にリソースに割り当てられることはないため、特定のリソース専用の MP ユニットとして使用できます。

MTIR

(Multi Target Incremental Resynchronization)

IBM 社の Multiple Target PPRC 機能で、2つの副サイト間で作成されるペアです。

MU

(Mirror Unit)

1つのプライマリボリュームと1つのセカンダリボリュームを関連づける情報です。

MVS

(Multiple Virtual Storage)

IBM 社のメインフレームシステム用 OS です。

Namespace

複数 LBA 範囲をまとめた、論理ボリュームの空間のことです。

Namespace Globally Unique Identifier

Namespace を識別するための、グローバルユニーク性を保証する 16Byte の識別情報です。SCSI LU での NAA Format6 で表現される、WWN に類似する情報です。

Namespace ID

NVM サブシステム上に作成された Namespace を、NVM サブシステムの中でユニークに識別するための識別番号です。

NGUID

(Namespace Globally Unique Identifier)

詳しくは、「Namespace Globally Unique Identifier」を参照してください。

NQN

(NVMe Qualified Name)

NVMe-oF 通信プロトコルで、NVMe ホストまたは NVM サブシステムを特定するためのグローバルユニークな識別子です。

NSID

(Namespace ID)

Namespace を特定するための、4Byte の識別情報です。

NVM

(Non-Volatile Memory)

不揮発性メモリです。

NVMe

(Non-Volatile Memory Express)

PCI Express を利用した SSD の接続インタフェース、通信プロトコルです。

NVMe over Fabrics

NVMe-oF 通信プロトコルによる通信を、様々な種類のネットワークファブリックに拡張する NVMe のプロトコルです。

NVMe/TCP

TCP/IP ネットワーク越しにホストとストレージ間で、NVMe-oF 通信プロトコルによる通信をするための NVMe over Fabrics 技術のひとつです。

NVMe コントローラ

NVMe ホストからのコマンド要求を処理する、物理的または論理的な制御デバイスです。

NVM サブシステム

NVM のデータストレージ機能を提供する制御システムです。

NVM サブシステムポート

ホストとコントローラが、NVMe I/O をするための Fabric に接続する通信ポートです。

Open/MF コンシステンシーグループ

Open/MF コンシステンシー維持機能を使用した、コンシステンシーグループのことです。Open/MF コンシステンシーグループ内の TrueCopy ペアおよび TrueCopy for Mainframe ペアを、同時に分割したり再同期したりできます。

Out-of-Band 方式

RAID Manager のコマンド実行方式の 1 つです。コマンドを実行すると、クライアントまたはサーバから LAN 経由で ESM/AMC/RAID Manager サーバの中にある仮想コマンドデバイスにコマンドが転送されます。仮想コマンドデバイスからストレージシステムに指示を出し、ストレージシステムで処理が実行されます。

Parent

Thin Image Advanced の用語で、メタデータの共有元となるボリュームを指します。

Family 内に vClone 属性のボリュームが存在しない場合、ルートボリュームが該当します。Family 内に vClone 属性のボリュームが存在する場合、vClone Parent 属性のボリュームが該当します。

PAV

IBM OS の機能で、一つのデバイスに対して複数の I/O 操作を並行して発行できるようにする機能です。本ストレージシステムで Compatible PAV 機能を使用することにより、IBM OS から本ストレージシステム上のデバイスに対してこの機能を使えるようになります。

PCB

(Printed Circuit Board)

プリント基盤です。このマニュアルでは、コントローラボードやチャンネルボード、ディスクボードなどのボードを指しています。

Point to Point

2 点を接続して通信するトポロジです。

PPRC

(Peer-to-Peer Remote Copy)

IBM 社のリモートコピー機能です。

Quorum ディスク

パスやストレージシステムに障害が発生したときに、global-active device ペアのどちらのボリュームでサーバからの I/O を継続するのかを決定するために使われます。外部ストレージシステムに設置します。

RAID

(Redundant Array of Independent Disks)

独立したディスクを冗長的に配列して管理する技術です。

RAID Manager

コマンドインタフェースでストレージシステムを操作するためのプログラムです。

RCU

(Remote Control Unit)

リモートコピーペアのセカンダリボリューム (副 VOL) を制御するディスクコントロールユニットです。リモートパスによって MCU に接続され、MCU からコマンドを受信して処理します。

RCU Target

属性が Initiator のポートと接続するポートを持つ属性です。

RCU Target ポート

Initiator ポートと接続します。RCU Target ポートは、ホストのポートとも通信できます。

RDEV

(Real Device)

IBM 用語です。DASD の実装置アドレスを意味します。

Read Hit 率

ストレージシステムの性能を測る指標の1つです。ホストがディスクから読み出そうとしていたデータが、どのくらいの頻度でキャッシュメモリに存在していたかを示します。単位はパーセントです。Read Hit 率が高くなるほど、ディスクとキャッシュメモリ間のデータ転送の回数が少なくなるため、処理速度は高くなります。

S/N

(Serial Number)

ストレージシステムに一意に付けられたシリアル番号（装置製番）です。

SAN

(Storage-Area Network)

ストレージシステムとサーバ間を直接接続する専用の高速ネットワークです。

SIM

(Service Information Message)

ストレージシステムのコントローラがエラーやサービス要求を検出したときに生成されるメッセージです。原因となるエラーを解決し、VSP One Block Administrator 画面上で SIM が解決したことを報告することを、「SIM をコンプリートする」と言います。

SM

(Shared Memory)

詳しくは「シェアドメモリ」を参照してください。

SMS

(Storage Management Subsystem)

IBM 社のメインフレームの OS が提供するツールで、データセットを容易かつ効率的に割り当てることができます。

SNMP

(Simple Network Management Protocol)

ネットワーク管理するために開発されたプロトコルの1つです。

SSID

ストレージシステムの ID です。ストレージシステムでは、搭載される LDEV のアドレスごと (64、128、256) に1つの SSID が設定されます。

SSL

(Secure Sockets Layer)

インターネット上でデータを安全に転送するためのプロトコルであり、Netscape Communications 社によって最初に開発されました。SSL が有効になっている2つのピア（装置）は、秘密鍵と公開鍵を利用して安全な通信セッションを確立します。どちらのピア（装置）も、ランダムに生成された対称キーを利用して、転送されたデータを暗号化します。

Super PAV

IBM OS の機能で、Hyper PAV の拡張機能です。あるベースデバイスに割り当てたエイリアスデバイスが、複数 CU 内のすべてのベースデバイスのエイリアスデバイスとして共有化されます。本ストレージシステムで Super PAV 機能を有効にすれば、IBM OS から本ストレージシステム上のデバイスに対してこの機能を使えるようになります。

T10 PI

(T10 Protection Information)

SCSI で定義された保証コード基準の一つです。T10 PI では、512 バイトごとに 8 バイトの保護情報 (PI) を追加して、データの検証に使用します。T10 PI にアプリケーションおよび OS を含めたデータ保護を実現する DIX (Data Integrity Extension) を組み合わせることで、アプリケーションからディスクドライブまでのデータ保護を実現します。

Target

ホストと接続するポートが持つ属性です。

TSE-VOL

(Track Space - Efficient Volume)

DP-VOL 同様の仮想ボリュームですが、IBM 製品の FlashCopy、および Compatible Software for IBM® FlashCopy® SE のターゲットボリュームとしてのみ使用できます。IBM ホストから認識できるよう互換を保持しています。DP-VOL とプールを共用するため、TSE-VOL を使用するためには、Compatible Software for IBM® FlashCopy® SE だけでなく、Dynamic Provisioning for Mainframe のライセンスもインストールする必要があります。

UPS

(Uninterruptible Power System)

ストレージシステムが停電や、瞬停のときでも停止しないようにするために搭載してある予備の電源のことです。

URL

(Uniform Resource Locator)

リソースの場所や種類の両方を記載しているインターネット上の住所を記述する標準方式です。

UUID

(User Definable LUN ID)

ホストから論理ボリュームを識別するために、ストレージシステム側で設定する任意の ID です。

Vary Offline

メインフレームシステム用ホストとオンライン接続しているデバイスを、オフライン状態に切り替える操作です。Vary Offline の操作をするには、メインフレームシステム用ホストからコマンドを実行します。

Vary Online

デバイスをメインフレームシステム用ホストとオンライン接続するための操作です。Vary Online の操作をするには、メインフレームシステム用ホストからコマンドを実行します。

vClone Parent 属性のボリューム

Thin Image Advanced の用語で、Family 内に vClone 属性のボリュームが存在する場合、そのメタデータの共有元になるボリュームを指します。

vClone 属性のボリューム

Thin Image Advanced の用語で、仮想クローン作成によって取得したスナップショットデータを格納するボリュームを指します。

VDEV

(Virtual Device)

IBM 用語です。DASD の仮想アドレスを意味します。

または、Hitachi 用語でパリティグループ内にある論理ボリュームのグループを意味します。

VDEV は任意のサイズの論理ボリューム (CV) とフリースペースから構成されます。VDEV 内に任意のサイズの論理ボリューム (CV) とフリースペースを作成することもできます。

VLAN

(Virtual LAN)

スイッチの内部で複数のネットワークに分割する機能です (IEEE802.1Q 規定)。

VOLSER

(Volume Serial Number)

個々のボリュームを識別するために割り当てられる番号です。VSN とも呼びます。LDEV 番号や LUN とは無関係です。

VSN

(Volume Serial Number)

個々のボリュームを識別するために割り当てられる番号です。VOLSER とも呼びます。

VSP One Block Administrator

ストレージシステムの構成やリソースを操作するシンプルな GUI の管理ツールです。

VTOC

(Volume Table of Contents)

ディスク上の複数データセットのアドレスや空き領域を管理するための情報を格納するディスク領域です。

Write Hit 率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。ホストがディスクへ書き込もうとしていたデータが、どのくらいの頻度でキャッシュメモリに存在していたかを示します。単位はパーセントです。Write Hit 率が高くなるほど、ディスクとキャッシュメモリ間のデータ転送の回数が少なくなるため、処理速度は高くなります。

WWN

(World Wide Name)

ホストバスアダプタの ID です。ストレージ装置を識別するためのもので、実体は 16 桁の 16 進数です。

zHyperWrite 機能

IBM 社の DS シリーズ ディスクアレイ装置でサポートしている zHyperWrite の互換機能です。上位アプリケーションである DB2 のログを書き込むときに行われる二重化処理で、TrueCopy for Mainframe の更新コピーを使用して二重化処理を行うのではなく、ホストから TrueCopy for Mainframe のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームに対して書き込みを行います。zHyperWrite の詳細については、IBM のマニュアルを参照してください。

(ア行)

アクセス属性

ボリュームが読み書き可能になっているか (Read/Write)、読み取り専用になっているか (Read Only)、それとも読み書き禁止になっているか (Protect) どうかを示す属性です。

アクセスパス

ストレージシステム内の、データとコマンドの転送経路です。

インクリメンタルリシンク

IBM 社の Multiple Target PPRC 機能で、MTIR ペア間で実行される差分コピーです。

インスタンス

特定の処理を実行するための機能集合のことです。

インスタンス番号

インスタンスを区別するための番号です。1 台のサーバ上で複数のインスタンスを動作させる
とき、インスタンス番号によって区別します。

エクステント

IBM 社のストレージシステム内で定義された論理デバイスは、ある一定のサイズに分割されて
管理されます。この、分割された最小管理単位の名称です。

エミュレーション

あるハードウェアまたはソフトウェアのシステムが、ほかのハードウェアまたはソフトウェア
のシステムと同じ動作をすること（または同等に見えるようにすること）です。一般的には、
過去に蓄積されたソフトウェアの資産を役立てるためにエミュレーションの技術が使われま
す。

(カ行)

外部ストレージシステム

本ストレージシステムに接続されているストレージシステムです。

外部パス

本ストレージシステムと外部ストレージシステムを接続するパスです。外部パスは、外部ボリ
ュームを内部ボリュームとしてマッピングしたときに設定します。複数の外部パスを設定する
ことで、障害やオンラインの保守作業にも対応できます。

外部ボリューム

外部ボリュームグループに作成した LDEV のことです。マッピングした外部ストレージシ
ステムのボリュームを実際にホストや他プログラムプロダクトから使用するためには、外部ボリ
ュームグループに LDEV を作成する必要があります。

外部ボリュームグループ

外部ストレージシステムのボリュームをマッピングしている、本ストレージシステム内の仮想
的なボリュームです。
外部ボリュームグループはパリティ情報を含みませんが、管理上はパリティグループと同じよ
うに取り扱います。

鍵管理サーバ

暗号化鍵を管理するサーバです。暗号化鍵を管理するための規格である KMIP (Key
Management Interoperability Protocol) に準じた鍵管理サーバに暗号化鍵をバックアップで
き、また、鍵管理サーバにバックアップした暗号化鍵から暗号化鍵をリストアできます。

書き込み待ち率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。キャッシュメモリに占める書き込み待ち
データの割合を示します。

仮想ボリューム

実体を持たない、仮想的なボリュームです。Dynamic Provisioning、または Dynamic Provisioning for Mainframe で使用する仮想ボリュームを DP-VOL と呼びます。

監査ログ

ストレージシステムに対して行われた操作や、受け取ったコマンドの記録です。Syslog サーバへの転送設定をすると、監査ログは常時 Syslog サーバへ転送され、Syslog サーバから監査ログを取得・参照できます。

管理ツールの操作端末

ストレージシステムを操作するためのコンピュータです。

キャッシュ

チャンネルとドライブの間にあるメモリです。中間バッファとしての役割があります。キャッシュメモリとも呼ばれます。

共用メモリ

詳しくは「シェアドメモリ」を参照してください。

形成コピー

ホスト I/O プロセスとは別に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを同期させるプロセスです。

更新コピー

形成コピー（または初期コピー）が完了したあとで、プライマリボリュームの更新内容をセカンダリボリュームにコピーして、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの同期を保持するコピー処理です。

構成定義ファイル

RAID Manager を動作させるためのシステム構成を定義するファイルを指します。

コピー系プログラムプロダクト

ストレージシステムに備わっているプログラムのうち、データをコピーするものを指します。ストレージシステム内のボリューム間でコピーするローカルコピーと、異なるストレージシステム間でコピーするリモートコピーがあります。

コピーグループ

プライマリボリューム（正側ボリューム）、およびセカンダリボリューム（副側ボリューム）から構成されるコピーペアを1つにグループ化したものです。または、正側と副側のデバイスグループを1つにグループ化したものです。RAID Manager でレプリケーションコマンドを実行する場合、コピーグループを定義する必要があります。

コマンドデバイス

ホストから RAID Manager コマンドを実行するために、ストレージシステムに設定する論理デバイスです。コマンドデバイスは、ホストから RAID Manager コマンドを受け取り、実行対象の論理デバイスに転送します。

Out-of-band 方式で接続された RAID Manager、もしくは内蔵 CLI を用いて設定してください。

コマンドデバイスセキュリティ

コマンドデバイスに適用されるセキュリティです。

コレクションコピー

ストレージシステム内のディスク障害を回復するためのコピー動作のことです。予備ディスクへのコピー、または交換ディスクへのコピー等が含まれます。

コンシステンシーグループ

コピー系プログラムプロダクトで作成したペアの集まりです。コンシステンシーグループ ID を指定すれば、コンシステンシーグループに属するすべてのペアに対して、データの整合性を保ちながら、特定の操作を同時に実行できます。

コントローラシャーシ

ストレージシステムを制御するコントローラが備わっているシャーシ（筐体）です。コントローラシャーシは DKC、CBX と同義語です。

(サ行)

サーバ証明書

サーバと鍵ペアを結び付けるものです。サーバ証明書によって、サーバは自分がサーバであることをクライアントに証明します。これによってサーバとクライアントは SSL を利用して通信できるようになります。サーバ証明書には、自己署名付きの証明書と署名付きの信頼できる証明書の 2 つの種類があります。

サイドファイル

コンカレントコピーで使用している内部のテーブルです。コピー未完了部分に更新 I/O が発生した際、バックアップデータ（スナップショット）をサイドファイルに退避することで、コピー先のデータ整合性を正しく保つために使用されます。

サイドファイルキャッシュ

コンカレントコピー実施中に生成されるバックアップデータ（スナップショット）を格納する領域で、キャッシュ内に一時的に確保されます。

サブシステム NQN

NVM サブシステムに定義された NQN です。
NQN の詳細については、「NQN」を参照してください。

差分テーブル

コピー系プログラムプロダクトおよび Volume Migration で共有するリソースです。Volume Migration 以外のプログラムプロダクトでは、ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータに差分があるかどうかを管理するために使用します。Volume Migration では、ボリュームの移動中に、ソースボリュームとターゲットボリュームの差分を管理するために使用します。

差分データ

ペアボリュームがサスペンドしたときの状態からの正ボリュームへの更新データのことです。

シェアドメモリ

キャッシュ上に論理的に存在するメモリです。共用メモリとも呼びます。ストレージシステムの共通情報や、キャッシュの管理情報（ディレクトリ）などを記憶します。これらの情報を基に、ストレージシステムは排他制御を行います。また、差分テーブルの情報もシェアドメモリで管理されており、コピーペアを作成する場合にシェアドメモリを利用します。

自己署名付きの証明書

自分自身で自分用の証明書を生成します。この場合、証明の対象は証明書の発行者と同じになります。ファイアウォールに守られた内部 LAN 上でクライアントとサーバ間の通信が行われている場合は、この証明書でも十分なセキュリティを確保できるかもしれません。

システムディスク

ストレージシステムが使用するボリュームのことです。一部の機能を使うためには、システムディスクの作成が必要です。

システムプールボリューム、システムプール VOL

プールを構成するプールボリュームのうち、1つのプールボリュームがシステムプールボリュームとして定義されます。システムプールボリュームは、プールを作成したとき、またはシステムプールボリュームを削除したときに、優先順位に従って自動的に設定されます。なお、システムプールボリュームで使用可能な容量は、管理領域の容量を差し引いた容量になります。管理領域とは、プールを使用するプログラムプロダクトの制御情報を格納する領域です。

ジャーナルボリューム

Universal Replicator と Universal Replicator for Mainframe の用語で、プライマリボリュームからセカンダリボリュームにコピーするデータを一時的に格納しておくためのボリュームのことです。ジャーナルボリュームには、プライマリボリュームと関連づけられているマスタジャーナルボリューム、およびセカンダリボリュームと関連づけられているリストアジャーナルボリュームとがあります。

詳細 API

リクエストラインに simple を含まない REST API です。ストレージシステムの情報取得や構成変更することができます。

状態遷移

ペアボリュームのペア状態が変化することです。

冗長パス

チャンネルボードの故障などによって LUN パスが利用できなくなったときに、その LUN パスに代わってホスト I/O を引き継ぐ LUN パスです。交替パスとも言います。

初期コピー

新規にコピーペアを作成すると、初期コピーが開始されます。初期コピーでは、プライマリボリュームのデータがすべて相手のセカンダリボリュームにコピーされます。初期コピー中も、ホストサーバからプライマリボリュームに対する Read/Write などの I/O 操作は続行できます。

署名付きの信頼できる証明書

証明書発行要求を生成したあとで、信頼できる CA 局に送付して署名してもらいます。CA 局の例としては VeriSign 社があります。

シリアル番号

ストレージシステムに一意に付けられたシリアル番号（装置製番）です。

シンプル API

リクエストラインに simple を含む REST API です。ストレージシステムの情報取得や構成変更することができます。

スナップショットグループ

Thin Image Advanced で作成した複数のペアの集まりです。複数のペアに対して同じ操作を実行できます。

スナップショットデータ

Thin Image Advanced では、特定時点のデータの複製のことを指します。

スワップ

プライマリボリューム/セカンダリボリュームを逆転する操作のことです。

正 VOL、正ボリューム

詳しくは「プライマリボリューム」を参照してください。

正サイト

通常時に、業務（アプリケーション）を実行するサイトを指します。

セカンダリボリューム

ペアとして設定された 2 つのボリュームのうち、コピー先のボリュームを指します。なお、プライマリボリュームとペアを組んでいるボリュームをセカンダリボリュームと呼びますが、Thin Image Advanced では、セカンダリボリューム（仮想ボリューム）ではなく、プールにデータが格納されます。

絶対 LUN

SCSI/iSCSI/Fibre ポート上に設定されているホストグループとは関係なく、ポート上に絶対的に割り当てられた LUN を示します。

センス情報

エラーの検出によってペアがサスペンドされた場合に、正サイトまたは副サイトのストレージシステムが、適切なホストに送信する情報です。ユニットチェックの状況が含まれ、災害復旧に使用されます。

専用 DASD

IBM 用語です。z/VM 上の任意のゲスト OS のみ利用可能な DASD を意味します。

ソースボリューム

Compatible FlashCopy[®]、および Volume Migration の用語で、Compatible FlashCopy[®] の場合はボリュームのコピー元となるボリュームを、Volume Migration の場合は別のパリティグループへと移動するボリュームを指します。

ゾーニング

ホストとリソース間トラフィックを論理的に分離します。ゾーンに分けることにより、処理は均等に分散されます。

(タ行)

ターゲットボリューム

Compatible FlashCopy[®]、および Volume Migration の用語で、Compatible FlashCopy[®] の場合はボリュームのコピー先となるボリュームを、Volume Migration の場合はボリュームの移動先となる領域を指します。

チャンネルエクステンダ

遠隔地にあるメインフレームホストをストレージシステムと接続するために使われるハードウェアです。

チャンネルボード

ストレージシステムに内蔵されているアダプタの一種で、ホストコマンドを処理してデータ転送を制御します。

重複排除用システムデータボリューム (データストア)

容量削減の設定が重複排除および圧縮の仮想ボリュームが関連づけられているプール内で、重複データを格納するためのボリュームです。

重複排除用システムデータボリューム (フィンガープリント)

容量削減の設定が重複排除および圧縮の仮想ボリュームが関連づけられているプール内で、重複排除データの制御情報を格納するためのボリュームです。

ディスクボード

ストレージシステムに内蔵されているアダプタの一種で、キャッシュとドライブの間のデータ転送を制御します。

データ削減共有ボリューム

データ削減共有ボリュームは、Adaptive Data Reduction の容量削減機能を使用して作成する仮想ボリュームです。Thin Image Advanced ペアのボリュームとして使用できます。データ削減共有ボリュームは、Redirect-on-Write のスナップショット機能を管理するための制御データ (メタデータ) を持つボリュームです。

データ削減共有ボリュームには、容量削減設定が有効なデータ削減共有ボリュームと、容量削減設定が無効なデータ削減共有ボリュームという 2 種類があります。詳しくは、「容量削減設定が有効なデータ削減共有ボリューム」または「容量削減設定が無効なデータ削減共有ボリューム」を参照してください。

転送レート

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。1 秒間にディスクへ転送されたデータの大きさを示します。

同期コピー

ホストからプライマリボリュームに書き込みがあった場合に、リアルタイムにセカンダリボリュームにデータを反映する方式のコピーです。ボリューム単位のリアルタイムデータバックアップができます。優先度の高いデータのバックアップ、複写、および移動業務に適しています。

トポロジ

デバイスの接続形態です。Fabric、FC-AL、および Point-to-point の 3 種類があります。

ドライブボックス

各種ドライブを搭載するためのシャーシ (筐体) です。

(ナ行)

内部ボリューム

本ストレージシステムが管理するボリュームを指します。

(ハ行)

パリティグループ

同じ容量を持ち、1つのデータグループとして扱われる一連のドライブを指します。パリティグループには、ユーザデータとパリティ情報の両方が格納されているため、そのグループ内の1つまたは複数のドライブが利用できない場合にも、ユーザデータにはアクセスできます。場合によっては、パリティグループを RAID グループ、ECC グループ、またはディスクアレイグループと呼ぶことがあります。

非対称アクセス

global-active device でのクロスパス構成など、サーバとストレージシステムを複数の冗長パスで接続している場合で、ALUA が有効のときに、優先して I/O を受け付けるパスを定義する方法です。

非同期コピー

ホストから書き込み要求があった場合に、プライマリボリュームへの書き込み処理とは非同期に、セカンダリボリュームにデータを反映する方式のコピーです。複数のボリュームや複数のストレージシステムにわたる大量のデータに対して、災害リカバリを可能にします。

ピントラック

(pinned track)

物理ドライブ障害などによって読み込みや書き込みができないトラックです。固定トラックとも呼びます。

ファイバチャネル

光ケーブルまたは銅線ケーブルによるシリアル伝送です。ファイバチャネルで接続された RAID のディスクは、ホストからは SCSI のディスクとして認識されます。

プール

プールボリューム（プール VOL）を登録する領域です。Dynamic Provisioning、Dynamic Provisioning for Mainframe、および Thin Image Advanced がプールを使用します。

プールボリューム、プール VOL

プールに登録されているボリュームです。Dynamic Provisioning および Dynamic Provisioning for Mainframe ではプールボリュームに通常のデータを格納し、Thin Image Advanced ではスナップショットデータをプールボリュームに格納します。

副 VOL、副ボリューム

詳しくは「セカンダリボリューム」を参照してください。

副サイト

主に障害時に、業務（アプリケーション）を正サイトから切り替えて実行するサイトを指します。

プライマリボリューム

ペアとして設定された2つのボリュームのうち、コピー元のボリュームを指します。

フラッシュメモリ

各プロセッサに搭載され、ソフトウェアを格納している不揮発性のメモリです。

ブロック

ボリューム容量の単位の一つです。1ブロックは512バイトです。

ペア

データ管理目的として互いに関連している2つのボリュームを指します（例、レプリケーション、マイグレーション）。ペアは通常、お客様の定義によりプライマリもしくはソースボリューム、およびセカンダリもしくはターゲットボリュームで構成されます。

ペア状態

ペアオペレーション前後にボリュームペアに割り当てられた内部状態。ペアオペレーションが実行されている、もしくは結果として障害となっているときにペア状態は変化します。ペア状態はコピーオペレーションを監視したり、システム障害を検出するために使われます。

ペアテーブル

ペアを管理するための制御情報を格納するテーブルです。

ページ

DPの領域を管理する単位です。Dynamic Provisioningの場合、1ページは42MB、Dynamic Provisioning for Mainframeの場合、1ページは38MBです。

ポートモード

ストレージシステムのチャンネルボードのポート上で動作する、通信プロトコルを選択するモードです。ポートの動作モードとも言います。

ホスト-Namespaceパス

日立ストレージシステムで、Namespaceセキュリティを使用する際に、ホストNQNごとに各Namespaceへのアクセス可否を決定するための設定です。Namespaceパスとも呼びます。

ホストNQN

NVMeホストに定義されたNQNです。NQNの詳細については、「NQN」を参照してください。

ホストグループ

ストレージシステムの同じポートに接続し、同じプラットフォーム上で稼働しているホストの集まりのことです。あるホストからストレージシステムに接続するには、ホストをホストグループに登録し、ホストグループをLDEVに結び付けます。この結び付ける操作のことを、LUNパスを追加するとも呼びます。

ホストグループ0（ゼロ）

「00」という番号が付いているホストグループを指します。

ホストデバイス

ホストに提供されるボリュームです。HDEV (Host Device) とも呼びます。

ホストバスアダプタ

(Host Bus Adapter)

オープンシステム用ホストに内蔵されているアダプタで、ホストとストレージシステムを接続するポートの役割を果たします。それぞれのホストバスアダプタには、16桁の16進数によるIDが付いています。ホストバスアダプタが付いているIDをWWN (Worldwide Name) と呼びます。

ホストモード

オープンシステム用ホストのプラットフォーム（通常は OS）を示すモードです。

(マ行)

マイグレーションボリューム

異なる機種のストレージシステムからデータを移行させる場合に使用するボリュームです。

マッピング

本ストレージシステムから外部ボリュームを操作するために必要な管理番号を、外部ボリュームに割り当てることです。

ミニディスク DASD

IBM 用語です。z/VM 上で定義される仮想 DASD を意味します。

(ヤ行)

容量削減設定が無効なデータ削減共有ボリューム

Adaptive Data Reduction の容量削減機能が有効、かつ、容量削減設定（「圧縮」または「重複排除および圧縮」）が無効である仮想ボリュームを指します。

容量削減設定が有効なデータ削減共有ボリューム

Adaptive Data Reduction の容量削減機能が有効、かつ、容量削減設定（「圧縮」または「重複排除および圧縮」）が有効である仮想ボリュームを指します。

(ラ行)

リソースグループ

ストレージシステムのリソースを割り当てたグループを指します。リソースグループに割り当てられるリソースは、LDEV 番号、パリティグループ、外部ボリューム、ポートおよびホストグループ番号です。

リモートコマンドデバイス

外部ストレージシステムのコマンドデバイスを、本ストレージシステムの内部ボリュームとしてマッピングしたものです。リモートコマンドデバイスに対して RAID Manager コマンドを発行すると、外部ストレージシステムのコマンドデバイスに RAID Manager コマンドを発行でき、外部ストレージシステムのペアなどを操作できます。

リモートストレージシステム

ローカルストレージシステムと接続しているストレージシステムを指します。

リモートパス

リモートコピー実行時に、遠隔地にあるストレージシステム同士を接続するパスです。

リンクアグリゲーション

複数のポートを集約して、仮想的にひとつのポートとして使う技術です。これによりデータリンクの帯域幅を広げるとともに、ポートの耐障害性を確保します。

レコードセット

非同期コピーの更新コピーモードでは、正 VOL の更新情報と制御情報をキャッシュに保存します。これらの情報をレコードセットといいます。ホストの I/O 処理とは別に、RCU に送信されます。

レスポンスタイム

モニタリング期間内での平均の応答時間。あるいは、エクスポートツール 2 で指定した期間内でのサンプリング期間ごとの平均の応答時間。単位は、各モニタリング項目によって異なります。

ローカルストレージシステム

管理ツールの操作端末を接続しているストレージシステムを指します。

索引

数字

3DC マルチターゲット構成 22

D

Data Retention Utility
アクセス属性 27

I

I/O 性能 48

R

RAID Manager
エラーコード一覧 51
トラブルシューティング 51

お

オプション
容量削減機能用のコピーしきい値オプション 48

か

概要 12

こ

コピーしきい値オプション 47

そ

ソースボリューム 12
3DC マルチターゲット構成 22
Data Retention Utility 26

Dynamic Provisioning 24
Resource Partition Manager 25
ShadowImage ペア 25
TrueCopy 19
Universal Replicator 22
ターゲットボリュームの組み合わせ 16
注意事項 17

た

ターゲットボリューム 12
ソースボリュームの組み合わせ 16
注意事項 28

と

トラブルシューティング 45
RAID Manager 51

ほ

ボリューム移動 40
注意事項 31
同時実行できる数 33
ボリューム移動とは 12

よ

要件 15
システム要件 16
ソースボリューム 17
ターゲットボリューム 28
ボリュームの組み合わせ 16

れ

レスポンス 48

Ⓢ 日立ヴァンタラ株式会社

〒 244-0817 神奈川県横浜市戸塚区吉田町 292 番地
